

集落アンケート集計結果の概要

目的と方法、回収結果

【調査目的】

地区や集落単位での生息状況及び被害状況を取りまとめ、集落における効果的な対策の実施に資することを目的とする。

【調査方法と対象】

調査は県内59市町村のうち協力の得られた47市町村を対象に実施した。

原則として調査対象は農林業センサス及び行政区をもとに決定し、送付先については市町村と協議の上決定した。1集落1枚アンケート用紙を配布し（配布部数3,925件）、回収、入力、分析を行った。

【回収結果】

配布部数3,925件の内、2,550件を回収した。（回収率65.0%）

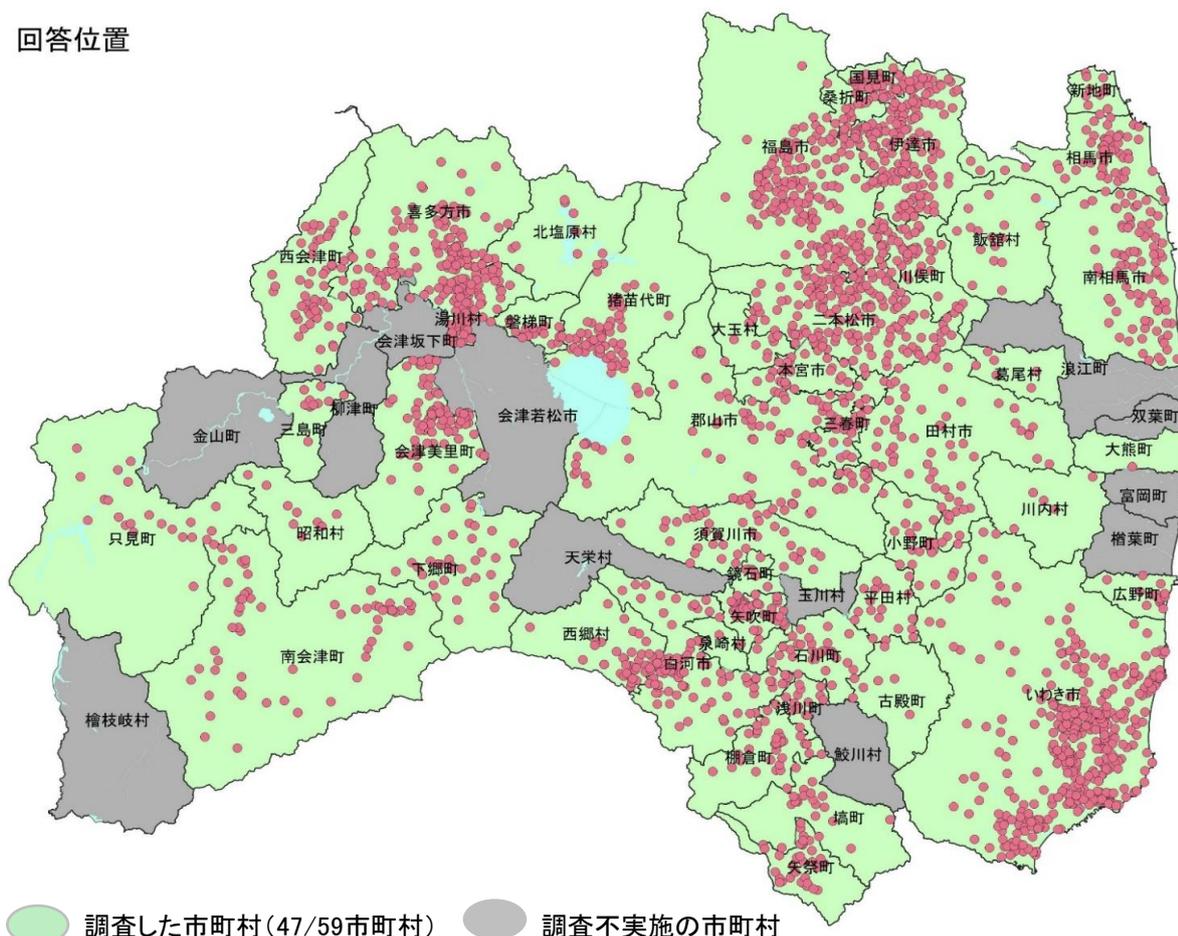
回収したアンケート数2,550件のうち、回答点緯度経度が判明した2,504件（浜通り 637件、中通り 1,268件、会津 599件）について、全ての質問項目について図示した（下図）。

【留意事項】

本調査は集落の代表者等を対象にアンケートを実施したことから、詳細については精査が必要である。

※グラフ等に掲載している割合は小数点以下第1位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100とはなりません。

● 回答位置



アンケート調査票

【表面】

福島県 獣害対策のための集落アンケート調査 令和5年度

住所 〒				集落名 または行政区名						
(住所などの情報は、地図の作成のために記入して頂いています。目的外には使用しません。)										
対象動物	集落での 目撃頻度	動物の増減		今年の 農林業被害	主な被害	農林業被害の動向		生活被害の動向		生活被害
		(昨年度比)	(5年前比)			(昨年度比)	(5年前比)	(昨年度比)	(5年前比)	
イノシシ □1頭の出没 □群れまたは子連れの出没 □いない (→右は記入不要)	□見かけない	□増えた	□増えた	□ない	□水稲	□増えた	□増えた	□増えた	□増えた	□家畜等への侵入 □住居集落地域での出没 □器物の損壊 □地面の掘り返し □交通事故 □その他() □なし
	□季節的に出没する	□変わらない	□変わらない	□軽微	□野菜()	□変わらない	□変わらない	□変わらない	□変わらない	
	□毎週~毎月出没する	□減った	□減った	□30%未満	□果樹()	□減った	□減った	□減った	□減った	
	□ほぼ毎日出没する	□わからない	□わからない	□30%以上 ※本来の生産量を 100%とする	□その他の農作物被害()					
					□農作物以外の農林業被害()					
ニホンジカ □角あり(オス)のみいる □角なしの集れがいる □子連れがいる □いない (→右は記入不要)	□見かけない	□増えた	□増えた	□ない	□水稲	□増えた	□増えた	□増えた	□増えた	□家畜等への侵入 □住居集落地域での出没 □器物の損壊 □樹皮はがし □交通事故 □その他() □なし
	□季節的に出没する	□変わらない	□変わらない	□軽微	□野菜()	□変わらない	□変わらない	□変わらない	□変わらない	
	□毎週~毎月出没する	□減った	□減った	□30%未満	□果樹()	□減った	□減った	□減った	□減った	
	□ほぼ毎日出没する	□わからない	□わからない	□30%以上 ※本来の生産量を 100%とする	□その他の農作物被害()					
					□農作物以外の農林業被害()					
ニホンザル □1頭~数頭がいる □子を連れて群れがいる □いない (→右は記入不要)	□見かけない	□増えた	□増えた	□ない	□水稲	□増えた	□増えた	□増えた	□増えた	□家畜等への侵入 □住居集落地域での出没 □器物の損壊 □その他() □なし
	□季節的に出没する	□変わらない	□変わらない	□軽微	□野菜()	□変わらない	□変わらない	□変わらない	□変わらない	
	□毎週~毎月出没する	□減った	□減った	□30%未満	□果樹()	□減った	□減った	□減った	□減った	
	□ほぼ毎日出没する	□わからない	□わからない	□30%以上 ※本来の生産量を 100%とする	□その他の農作物被害()					
					□農作物以外の農林業被害()					
ツキノワグマ □1頭の出没 □子連れの出没 □いない (→右は記入不要) ※冬季を除く	□見かけない	□増えた	□増えた	□ない	□水稲	□増えた	□増えた	□増えた	□増えた	□家畜等への侵入 □住居集落地域での出没 □器物の損壊 □その他() □なし
	□季節的に出没する	□変わらない	□変わらない	□軽微	□野菜()	□変わらない	□変わらない	□変わらない	□変わらない	
	□毎週~毎月出没する	□減った	□減った	□30%未満	□果樹()	□減った	□減った	□減った	□減った	
	□ほぼ毎日出没する	□わからない	□わからない	□30%以上 ※本来の生産量を 100%とする	□その他の農作物被害()					
					□農作物以外の農林業被害()					
アライグマ □1頭の出没 □群れまたは子連れの出没 □いない (→右は記入不要)	□見かけない	□増えた	□増えた	□ない	□水稲	□増えた	□増えた	□増えた	□増えた	□家畜等への侵入 □住居集落地域での出没 □器物の損壊 □その他() □なし
	□季節的に出没する	□変わらない	□変わらない	□軽微	□野菜()	□変わらない	□変わらない	□変わらない	□変わらない	
	□毎週~毎月出没する	□減った	□減った	□30%未満	□果樹()	□減った	□減った	□減った	□減った	
	□ほぼ毎日出没する	□わからない	□わからない	□30%以上 ※本来の生産量を 100%とする	□その他の農作物被害()					
					□農作物以外の農林業被害()					
ハクビシン □1頭の出没 □子連れの出没 □いない (→右は記入不要)	□見かけない	□増えた	□増えた	□ない	□水稲	□増えた	□増えた	□増えた	□増えた	□家畜等への侵入 □住居集落地域での出没 □器物の損壊 □その他() □なし
	□季節的に出没する	□変わらない	□変わらない	□軽微	□野菜()	□変わらない	□変わらない	□変わらない	□変わらない	
	□毎週~毎月出没する	□減った	□減った	□30%未満	□果樹()	□減った	□減った	□減った	□減った	
	□ほぼ毎日出没する	□わからない	□わからない	□30%以上 ※本来の生産量を 100%とする	□その他の農作物被害()					
					□農作物以外の農林業被害()					

※調査対象は農林業センサス(国や県が行う)農林業者を対象とした5年に1度の調査)及び行政区をもとに決定し、送付先についてはお住いの市町村と協議の上決定しております。

記入例は別紙にあります。 裏面にも質問があります。

【裏面】

【お問い合わせ先】 陸奥テックコンサルタント株式会社 獣害対策アンケート調査担当 電話：024-983-3065 【委託者】 福島県自然保護課

対象動物	集落で実施した被害対策と効果 (令和5年度) (防護柵はこれまでに設置したものを含む)	防護柵の管理状況 (見回り・除草・補修等)
イノシシ 「いない」場合は →右の記入は不要	□何もしていない	□管理できている
	□捕獲 (効果あり・なし・不明)	□管理できていない
	□電気柵 (効果あり・なし・不明)	□管理は個人に任せている
	□金網柵・ワイヤーメッシュ柵 (効果あり・なし・不明)	
	□耕作放棄地の管理・誘引物除去 (効果あり・なし・不明)	
ニホンジカ 「いない」場合は →右の記入は不要	□何もしていない	□管理できている
	□捕獲 (効果あり・なし・不明)	□管理できていない
	□電気柵 (効果あり・なし・不明)	□管理は個人に任せている
	□金網柵・ワイヤーメッシュ柵 (効果あり・なし・不明)	
	□耕作放棄地の管理・誘引物除去 (効果あり・なし・不明)	
ニホンザル 「いない」場合は →右の記入は不要	□何もしていない	□管理できている
	□人による追い払い (効果あり・なし・不明)	□管理できていない
	□捕獲 (効果あり・なし・不明)	□管理は個人に任せている
	□電気柵 (効果あり・なし・不明)	
	□森林の伐採・誘引物除去 (効果あり・なし・不明)	
ツキノワグマ 「いない」場合は →右の記入は不要	□何もしていない	□管理できている
	□人による追い払い (効果あり・なし・不明)	□管理できていない
	□捕獲 (効果あり・なし・不明)	□管理は個人に任せている
	□電気柵 (効果あり・なし・不明)	
	□森林の伐採・誘引物除去 (効果あり・なし・不明)	
アライグマ 「いない」場合は →右の記入は不要	□何もしていない	□管理できている
	□捕獲 (効果あり・なし・不明)	□管理できていない
	□電気柵 (効果あり・なし・不明)	□管理は個人に任せている
	□金網柵・ワイヤーメッシュ柵 (効果あり・なし・不明)	
	□耕作放棄地の管理・誘引物除去 (効果あり・なし・不明)	
ハクビシン 「いない」場合は →右の記入は不要	□何もしていない	□管理できている
	□捕獲 (効果あり・なし・不明)	□管理できていない
	□電気柵 (効果あり・なし・不明)	□管理は個人に任せている
	□金網柵・ワイヤーメッシュ柵 (効果あり・なし・不明)	
	□耕作放棄地の管理・誘引物除去 (効果あり・なし・不明)	

集落の活動と対策について

集落の戸数 () 戸

寄合の頻度と参加者はどのくらいですか?
年に () 回 参加率：1~3割・4~5割・6~7割・8割以上

集落で行っている活動 (複数選択可)

□道路等の草刈り □耕作放棄地対策 □崖山形整備事業
□水路の掃除 □中山間地域等直接支払交付金事業
□集会所やお祭りの草刈、掃除 □多目的機能支払交付金事業
□お祭り、イベントなど □その他の補助事業
□集落営農 (事業名：)

集落内に狩猟免許を持っている人(捕獲ができる人)はいませんか?
□いる () 名 免許種別： 罎・わな・銃
主な年代： 40代以下・50代・60代・70代・80代以上
□いない

対策の開始または経緯について

□対策を継続している □今年度から対策を始めた □対策をやめた □対策していない
※「対策をやめた」、「対策をしていない」と回答した方は下記へ理由をご記載ください。

↳理由： ()

地域内で対策を行っている単位

□個人で対策 □地域ぐるみで対策(内容：)
※「個人で対策」と回答した方は以下の質問にご回答ください。

↳地域ぐるみでの獣害対策 (ヤブの刈り払いや防護柵設置) など
□無償的にしたい □可能であればしたい □する必要がある
※「地域ぐるみでの捕獲対策(見回りや埋設補助)など ※補助者制度の活用による
□無償的にしたい □可能であればしたい □する必要がある

獣害対策に関する研修会等の実施

□実施したことがある □機会があれば実施したい □実施する必要はない

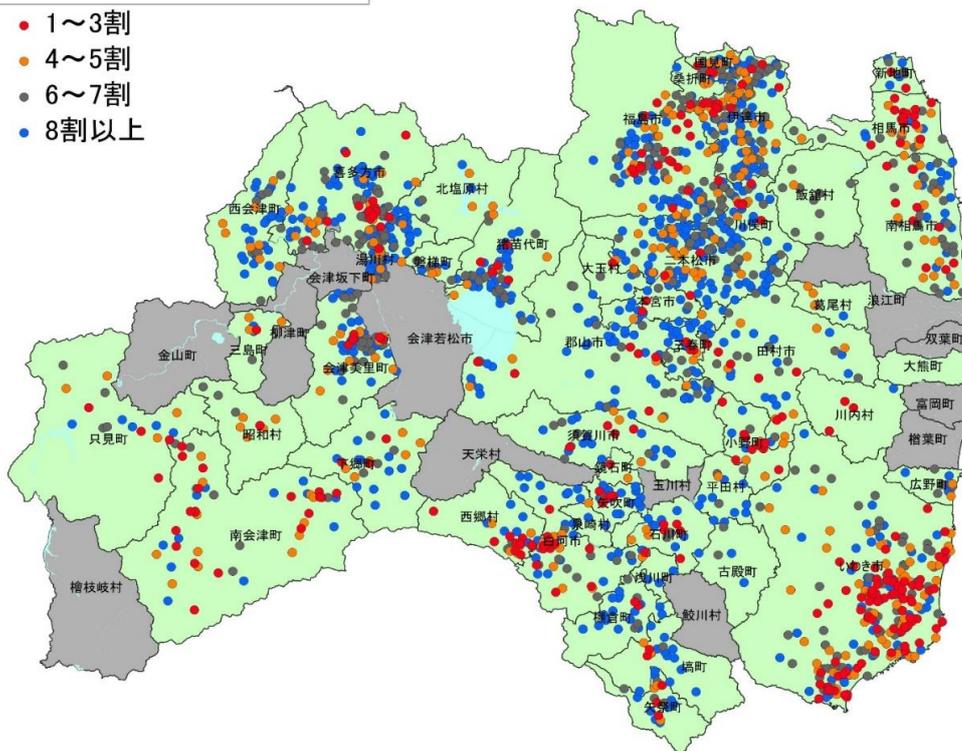
※補助者制度とは、法人(市町村や協議会)が銃器以外による捕獲を行うときに、捕獲従事者の中に狩猟免許所持者が含まれていれば、補助者として狩猟免許を所持していない人を含むことができる制度のこと。(講習会を受講し、捕獲技術や安全性等が確保されている等の要件がある。わなの見回りや埋設の補助等が可能となる)

※誘引物とは、収穫をあきらめた果物(カキ、クリ、クワ等)、野菜くず、生ごみなど。 ご協力ありがとうございます。

集落の状況

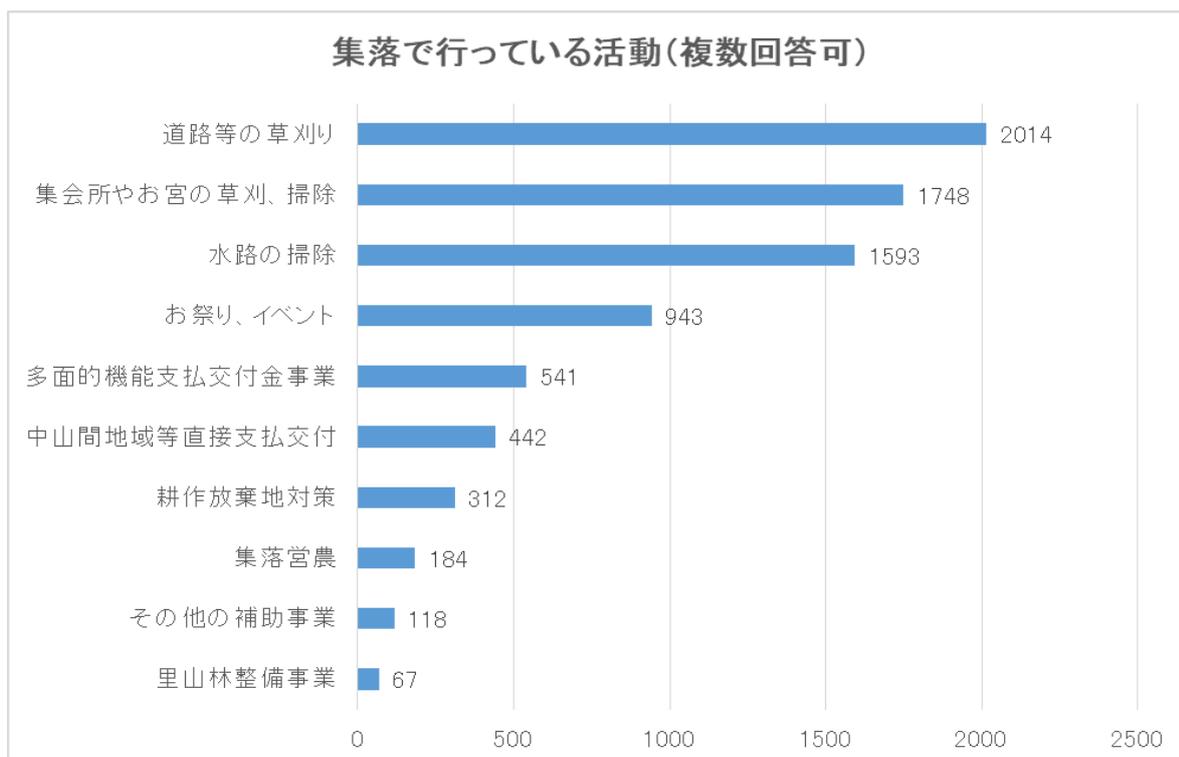
集落での寄合での参加率

- 1～3割
- 4～5割
- 6～7割
- 8割以上



寄合の参加率は、県内全域で8割以上が多く、次いで6～7割と高い傾向にある。

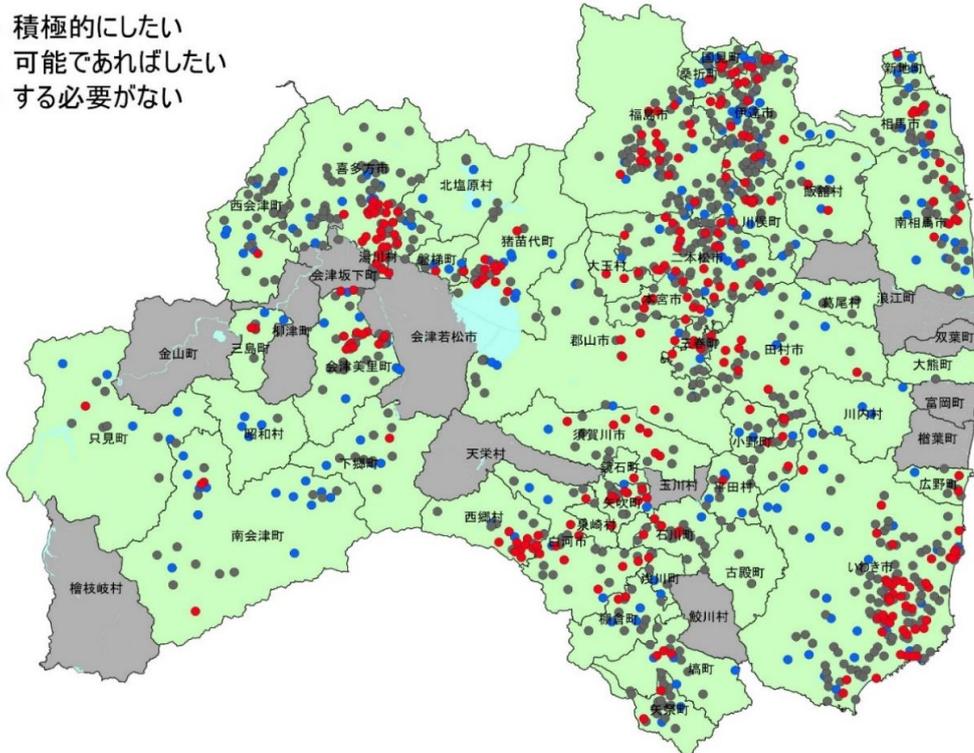
集落で行っている活動(複数回答可)



集落で行っている活動については、多いものから「道路の草刈り」、「集会所やお宮の草刈、掃除」、「水路の掃除」が半数以上の集落で行われているのに対して、「多面的機能支払交付金事業」、「中山間地域等直接支払交付」の交付金を利用している集落が2割前後、「耕作放棄地対策」や「集落営農」が1割前後であり、概ね令和2年度と同様の傾向であった。

地域ぐるみでの獣害対策の実施希望(ヤブの刈り払いや防護柵設置など)

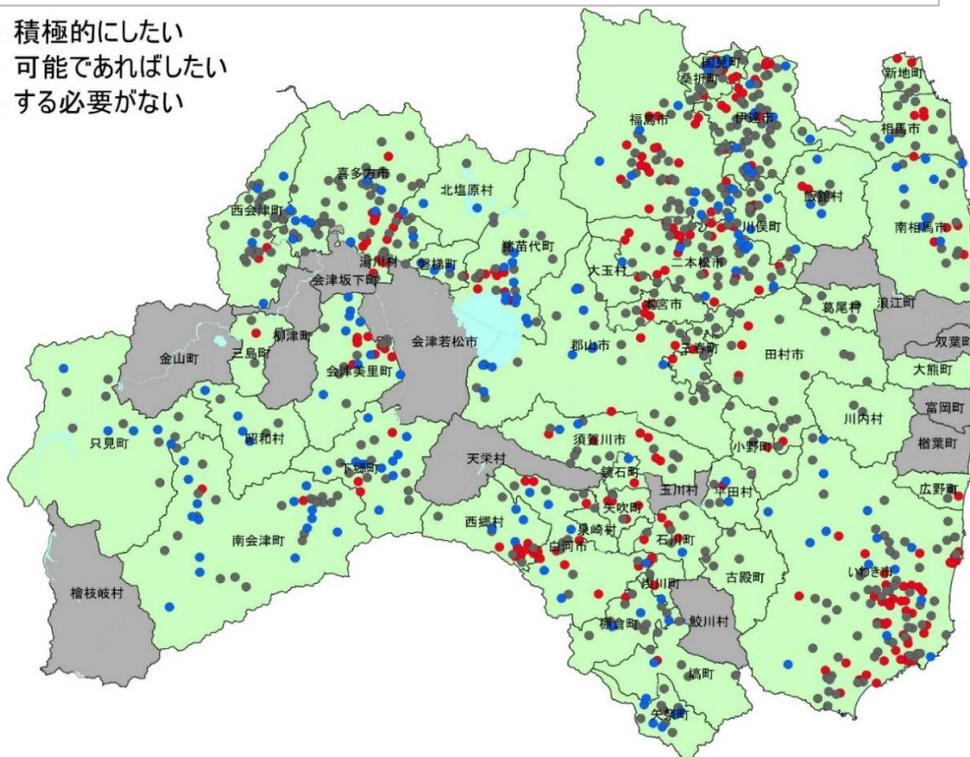
- 積極的にしたい
- 可能であればしたい
- する必要がない



「個人で対策」、または「個人で対策」、「地域ぐるみで対策」の両方を回答した集落で、地域ぐるみでの獣害対策を「積極的にしたい」、または「可能であればしたい」と回答している集落が県内全域に見られる。

地域ぐるみでの捕獲対策の実施希望(見回りや埋設補助など)

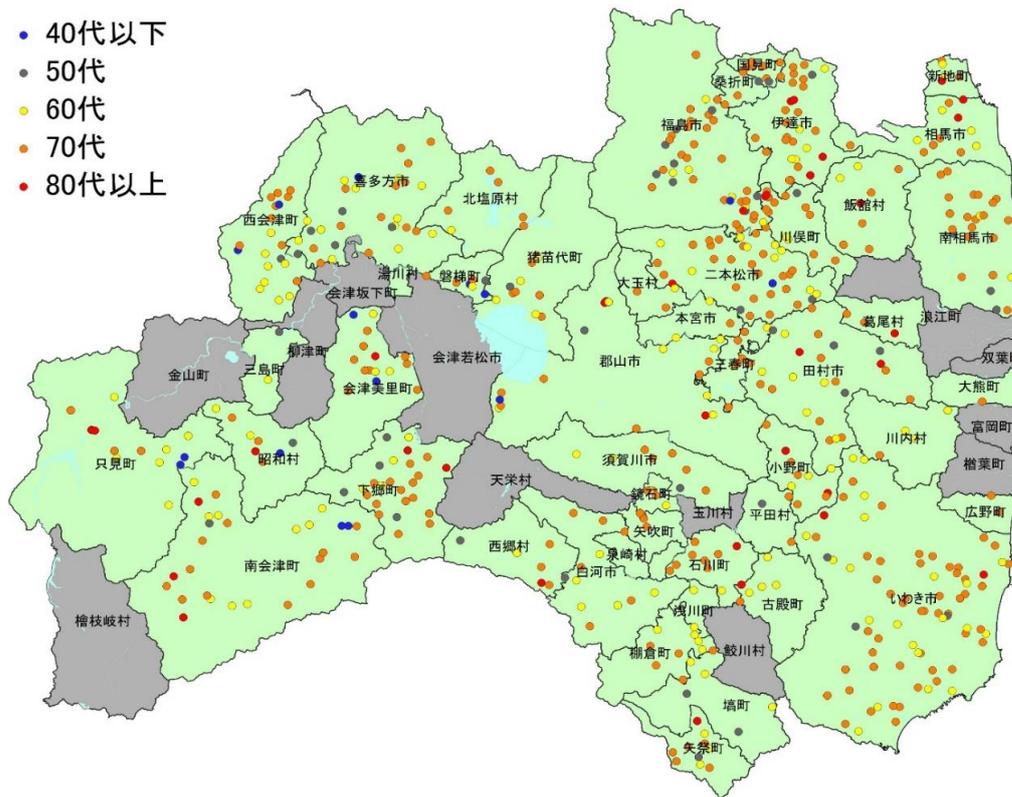
- 積極的にしたい
- 可能であればしたい
- する必要がない



「地域ぐるみで対策」、または「個人で対策」、「地域ぐるみで対策」の両方を回答した集落で、地域ぐるみでの捕獲対策を「積極的にしたい」、または「可能であればしたい」と回答している集落が県内全域に見られる。

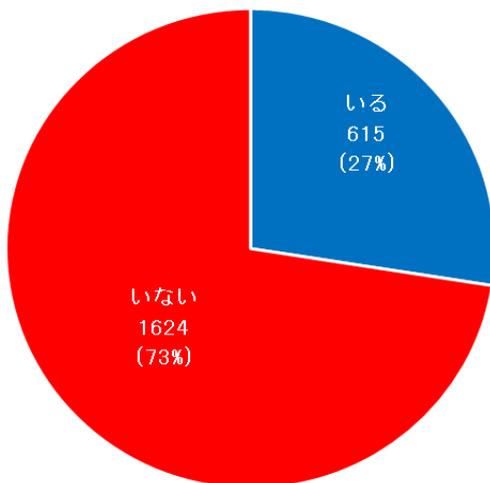
狩猟免許保有者の主な年代

- 40代以下
- 50代
- 60代
- 70代
- 80代以上

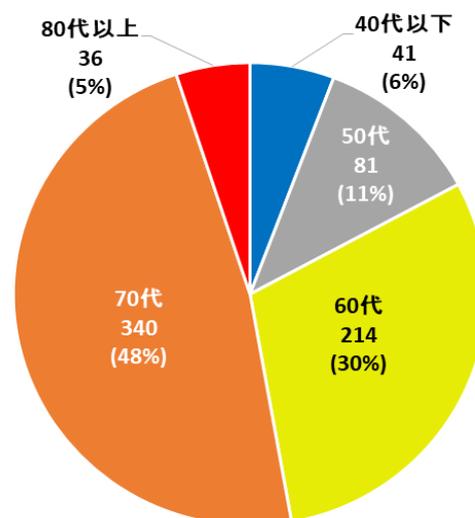


狩猟免許保有者の主な年代は、県内全域で60代、70代が目立つ。

狩猟免許の保有状況



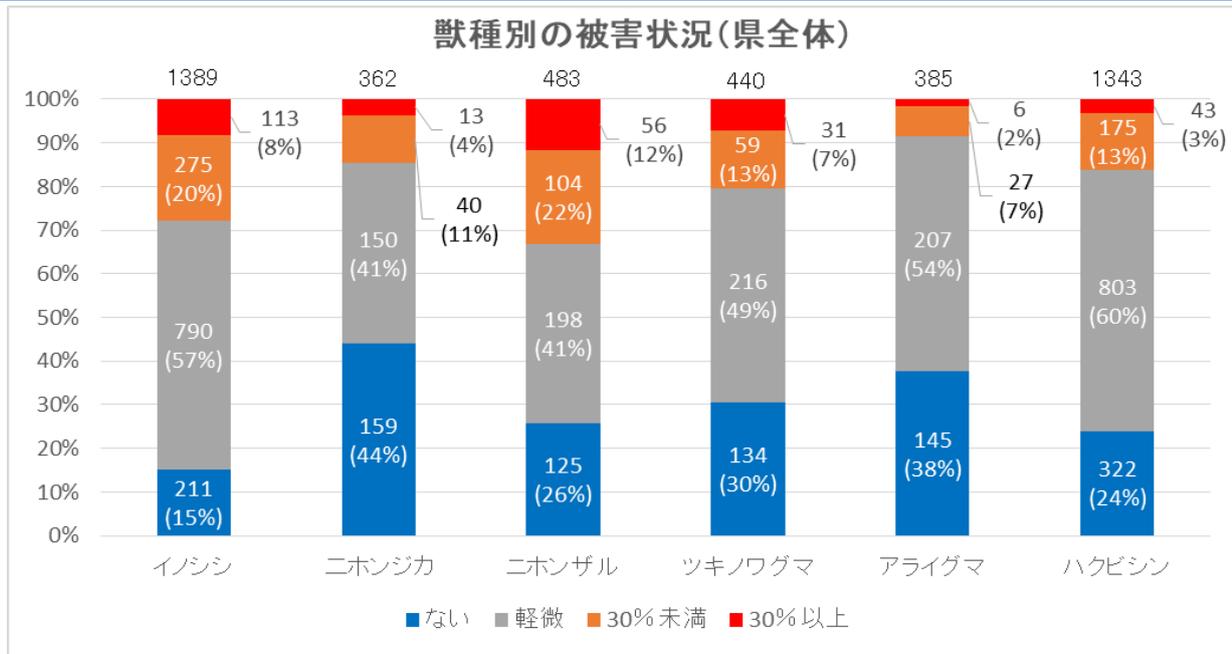
主な年代



狩猟免許保有者のいる集落は全体の27%であり、全体の7割以上の集落で狩猟免許保有者がいない状況である。

狩猟免許を保有する年代は、70代が最も多く、次いで60代、50代と、年代が若いほど少ない傾向にあり、狩猟免許保有者の高齢化が見られる。

獣種別の被害状況

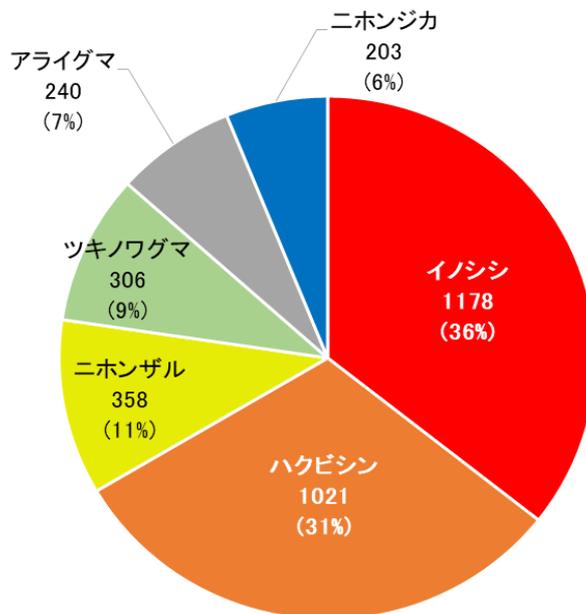


鳥獣がいる集落での獣種別の被害発生件数は、イノシシが最も多く、次いでハクビシンであった。最も被害件数が少なかったのはニホンジカであった。

被害の程度については、イノシシとニホンザルでは「30%以上」及び「30%未満」の被害件数が多く、深刻な被害が出ていると見られる。

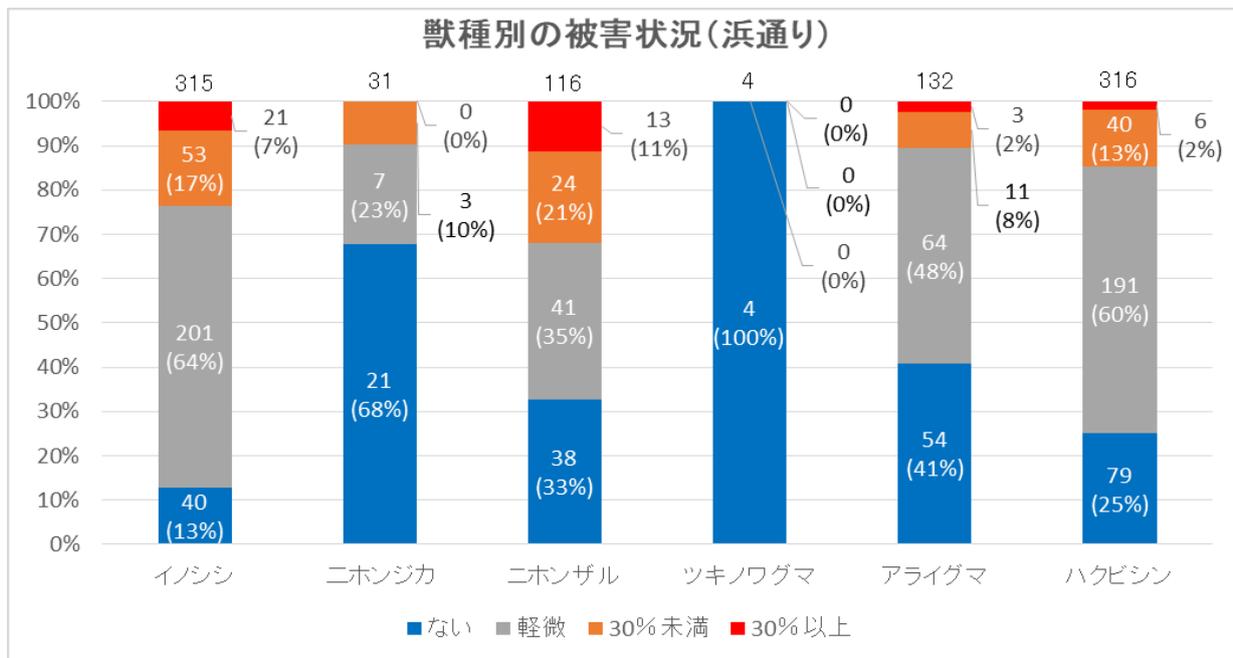
全ての獣種において、半数以上の集落が何らかの被害が出ている結果となった。

被害があった獣種の割合(県全体)



被害発生件数が多い獣種はイノシシとハクビシンの2種で、共に全被害件数に対し30%以上の被害件数であった。

最も少なかった獣種はニホンジカで、その他の獣種は1割前後であった。

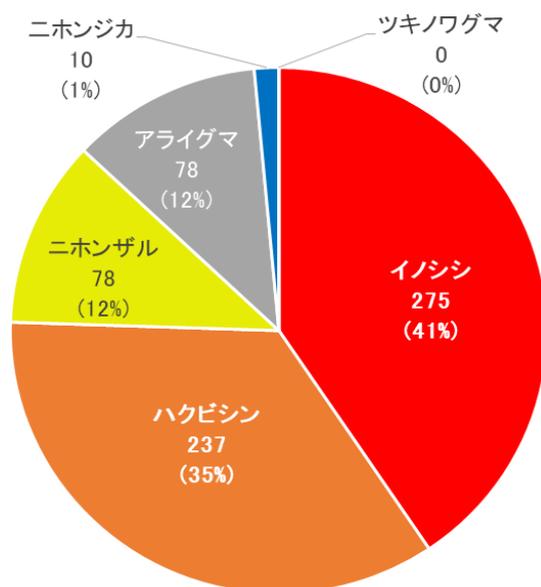


浜通りにおける獣種別の被害発生件数は、イノシシが最も多く、次いでハクビシンであった。ツキノワグマの被害件数は0件であった。

件数の少ないニホンジカ、ツキノワグマを除けば、半数以上の集落で何らかの被害が出ている結果となった。

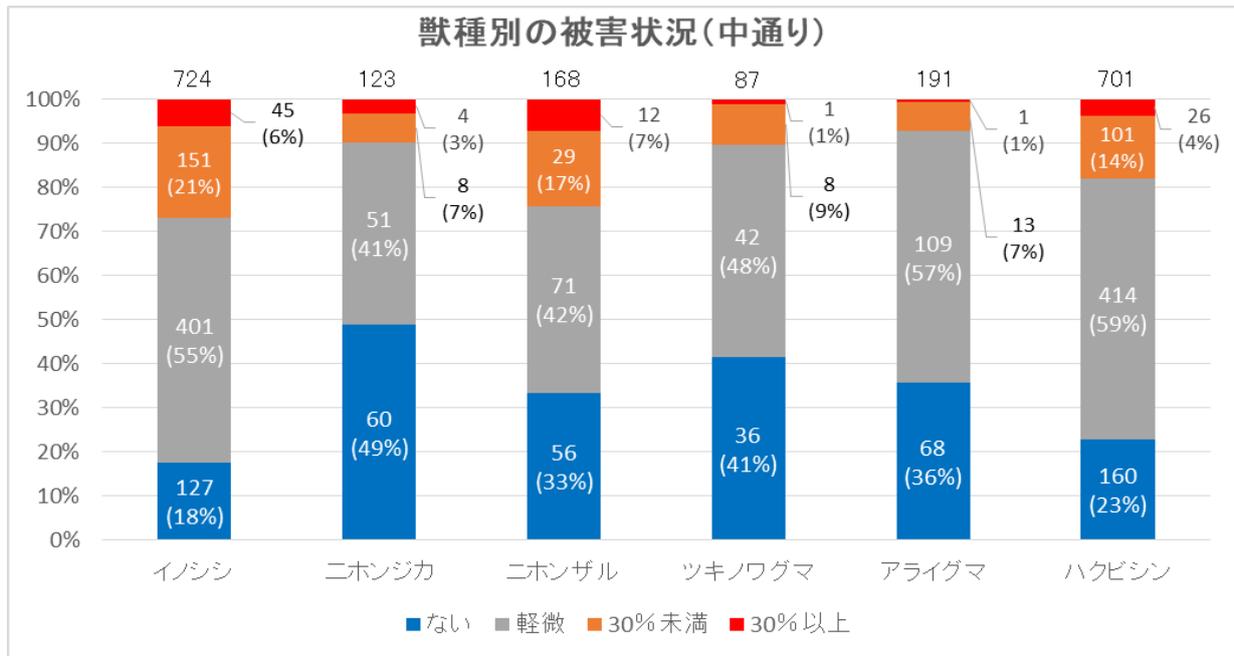
また、イノシシ、ニホンザルにおいては「30%以上」の被害件数が多く、大きな被害が出ている。

被害があった獣種の割合(浜通り)



被害発生件数が多い獣種はイノシシで、全被害件数に対し41%、次いで被害が多かったのはハクビシンで35%であった。ニホンザル、アライグマは共に78件で12%にとどまった。

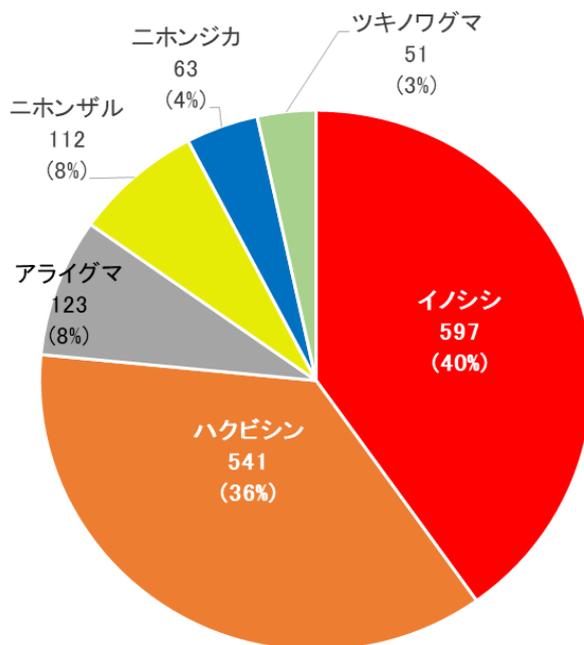
ニホンジカによる被害は少なく10件、ツキノワグマによる被害は0件であった。



中通りにおける獣種別の被害発生件数は、イノシシが最も多く、次いでハクビシンであった。被害の程度を見ると、イノシシ、ハクビシンにより大きな被害が出ている結果となった。

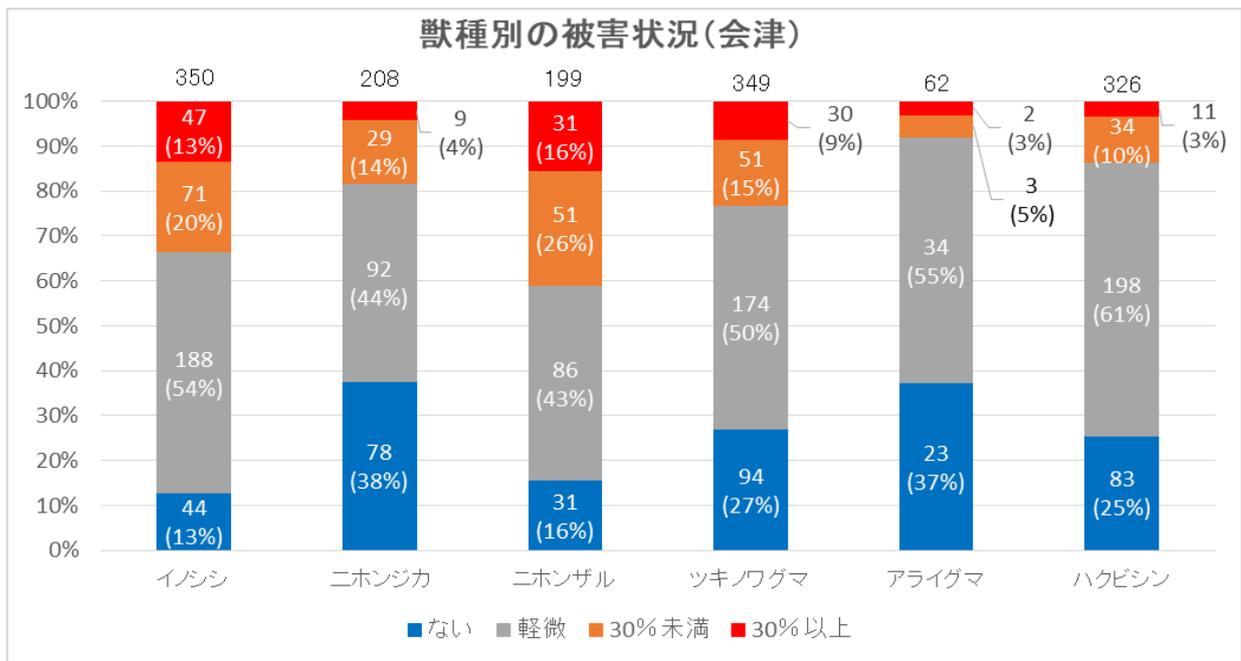
中通りでは、全ての獣種において、半数以上の集落が何らかの被害が出ていると回答した。

被害があった獣種の割合(中通り)



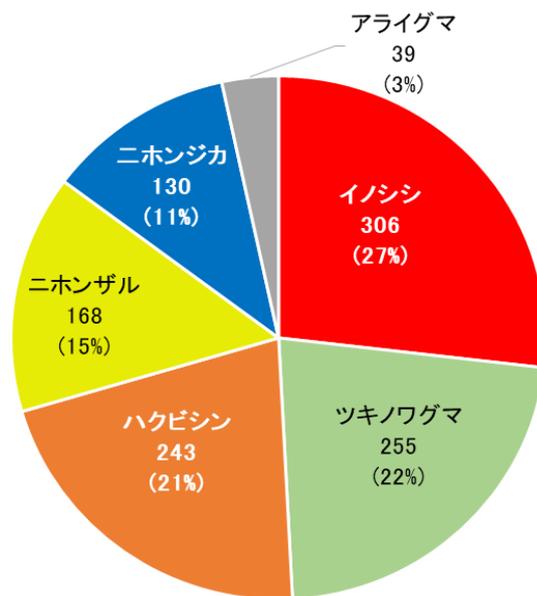
被害発生件数が多い獣種はイノシシで、全被害件数に対し40%、次いで被害が多かったのはハクビシンで36%であった。

ニホンザル、アライグマは共に8%ではあるが、被害件数は100件を超えている。また、被害件数の最も少ないツキノワグマでも、51件の被害が出ている。



会津における獣種別の被害発生件数は、イノシシが最も多く、次いでツキノワグマと続いた。会津地方は、3方部の中でも、複数の獣種により甚大な被害が出ているのが分かる。特に、ニホンジカ、ニホンザル、ツキノワグマによる被害は3方部の中で最も多く、注意が必要である。

被害があった獣種の割合(会津)

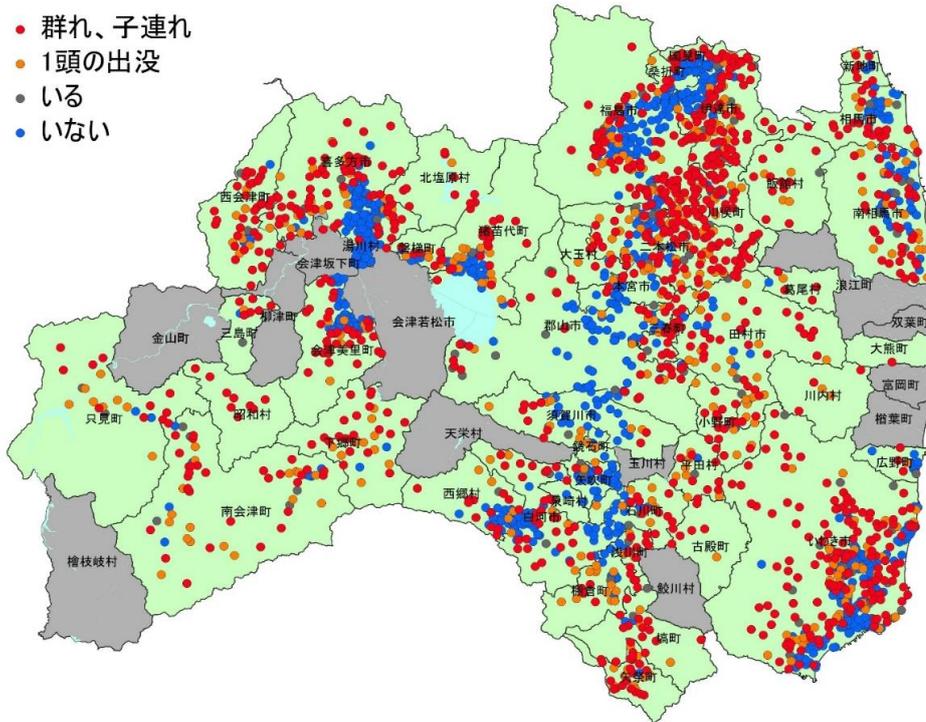


被害発生件数が多い獣種はイノシシで、全被害件数に対し27%、次いで被害が多かったのはツキノワグマの22%で被害件数が255件出ており注意が必要である。また、ニホンザル、ニホンジカ、ハクビシンによる被害も多く出ている。

イノシシの被害状況

イノシシの生息状況

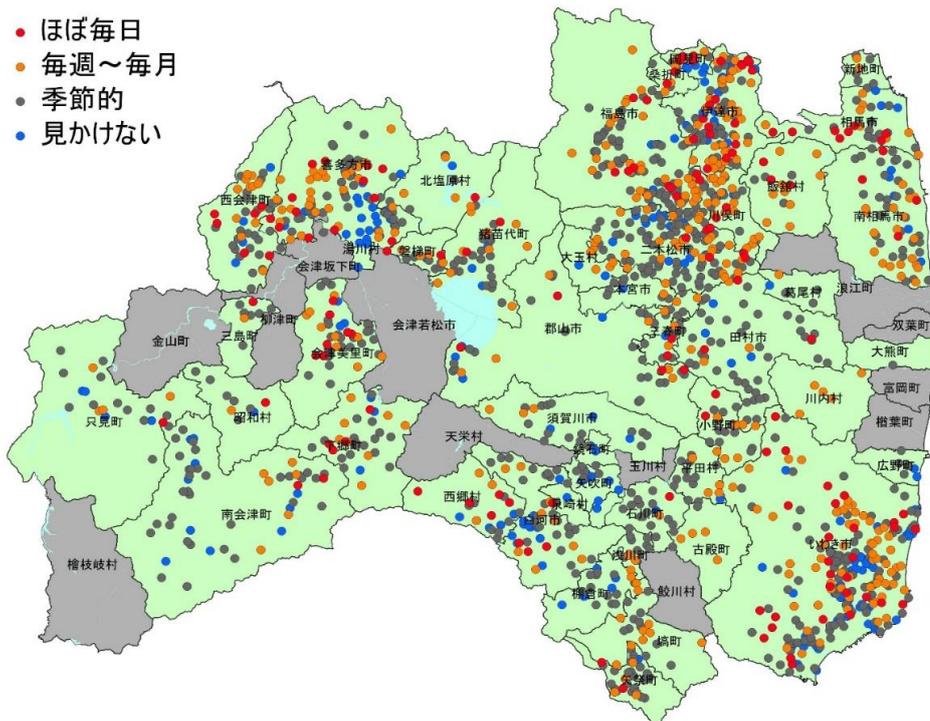
- 群れ、子連れ
- 1頭の出没
- いる
- いない



イノシシは、市街地を除く県内のほぼ全域で繁殖定着が確認された。

イノシシの目撃頻度

- ほぼ毎日
- 毎週～毎月
- 季節的
- 見かけない

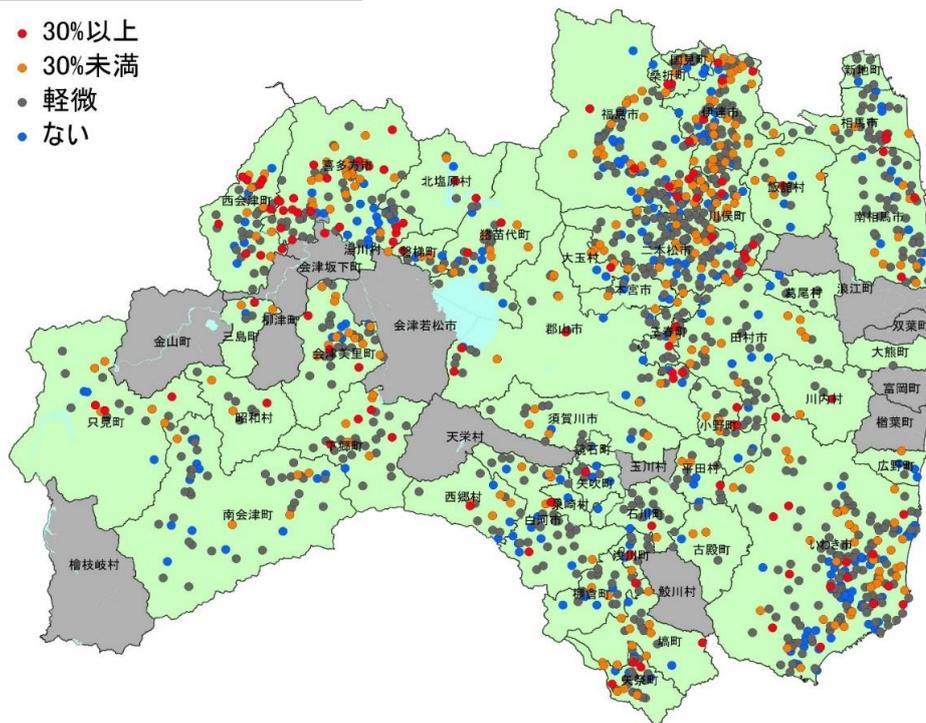


イノシシの目撃頻度は、県内全域で季節的な出没が多く見られる。

イノシシの被害・対策状況

イノシシの被害の程度

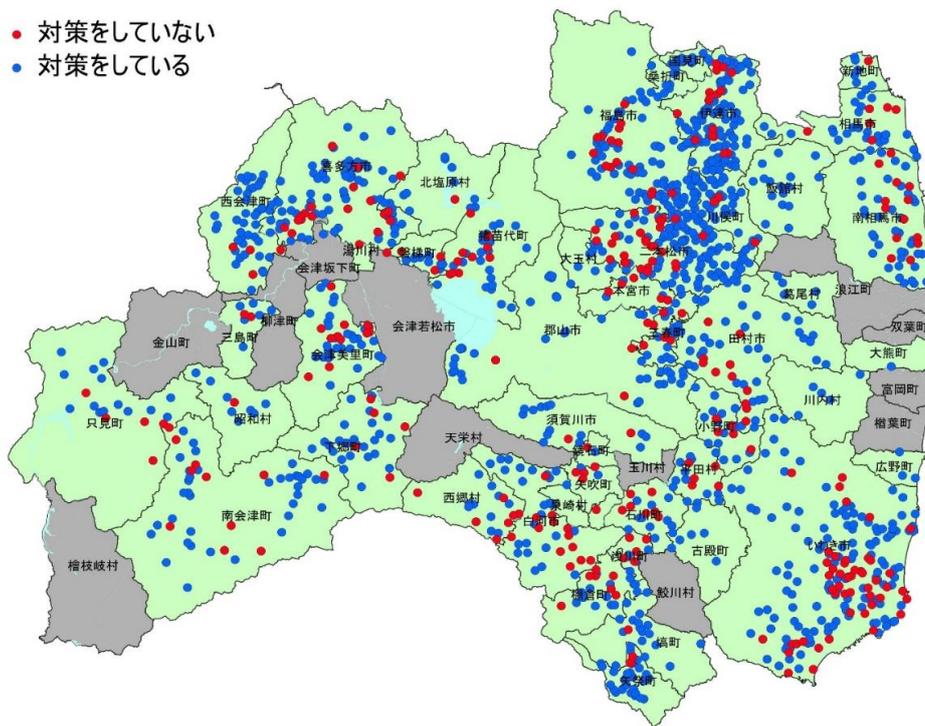
- 30%以上
- 30%未満
- 軽微
- ない



イノシシによる被害の程度は、県内全域で「軽微」との回答が多く見られるが、会津の北部および中通り北部では、「軽微」より大きな被害があるとの回答が目立つ。

イノシシの被害対策の実施

- 対策をしていない
- 対策をしている

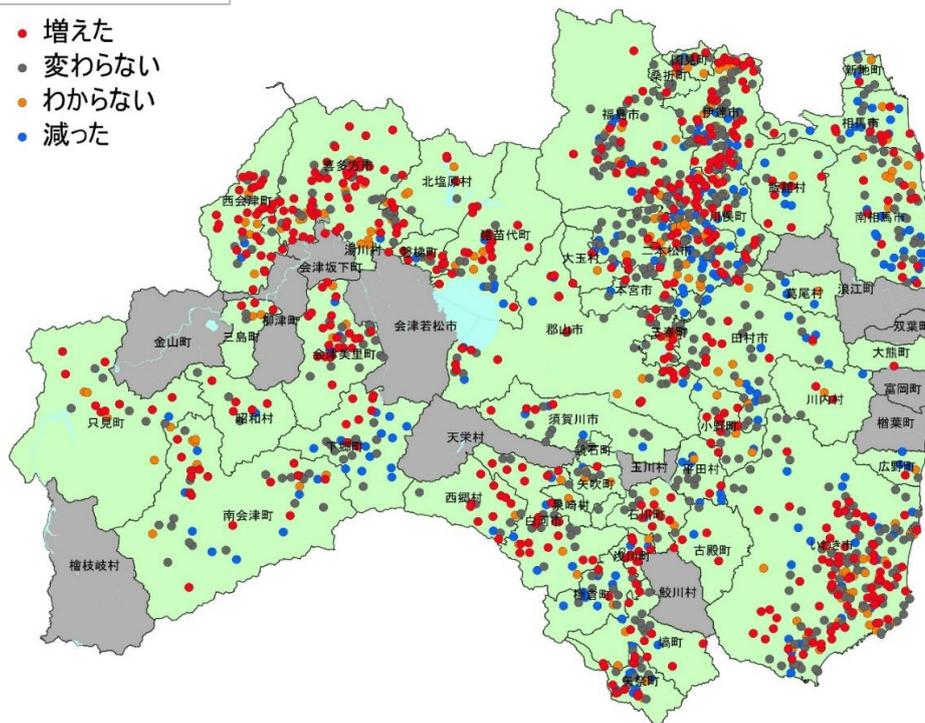


イノシシが定着している集落では、約8割の集落がイノシシ被害への対策を行っているが、農林被害および生活被害が出ていても対策を行っていない集落も見られる。

イノシシの生息状況の増減

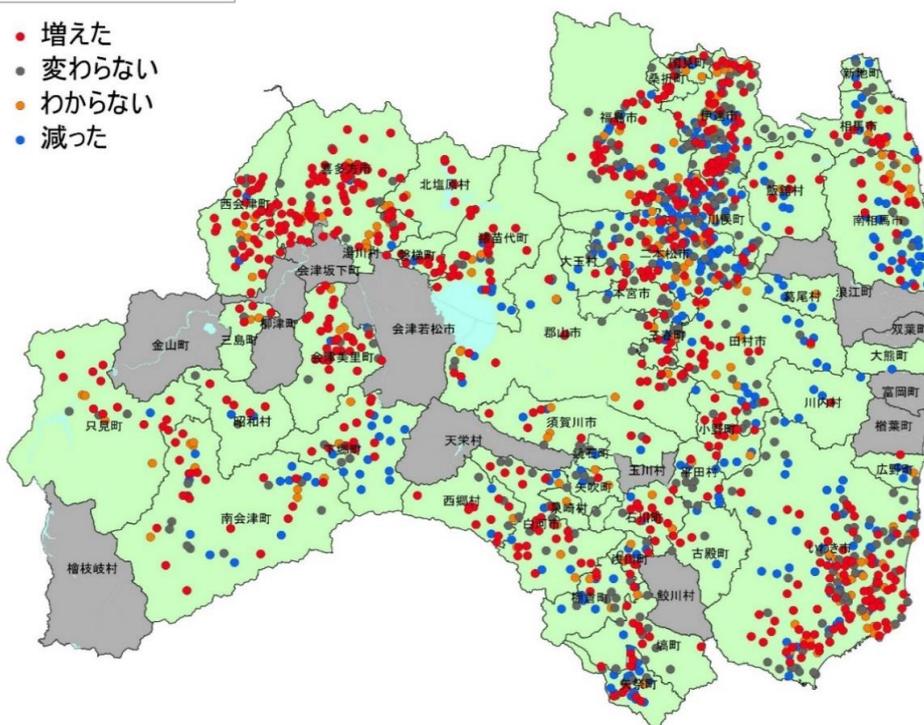
昨年度比

- 増えた
- 変わらない
- わからない
- 減った



5年前比

- 増えた
- 変わらない
- わからない
- 減った

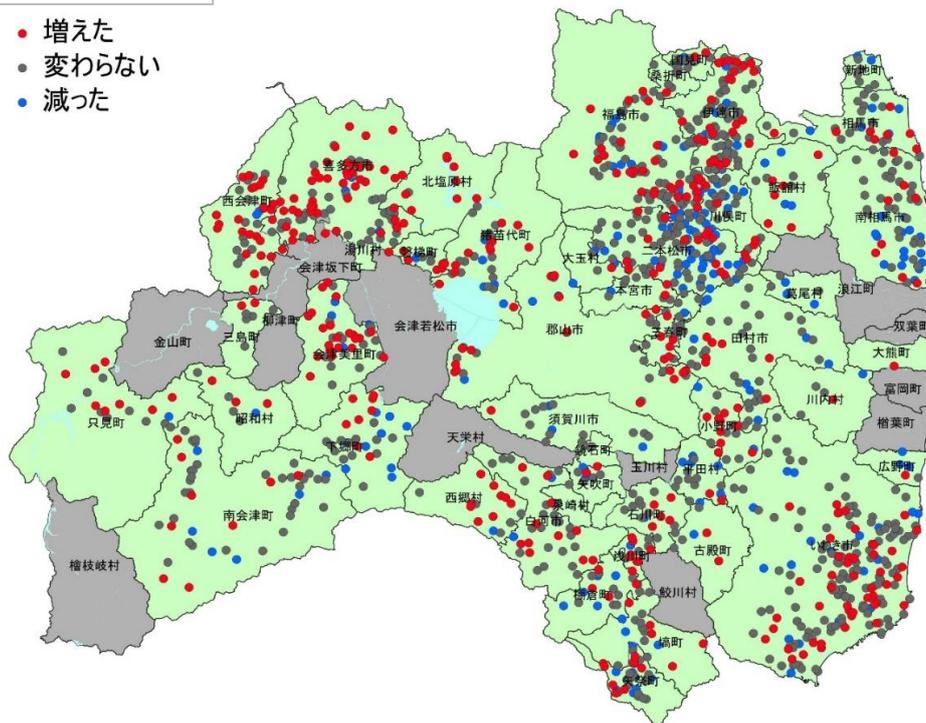


イノシシの生息状況は、ほぼ全域で増加もしくは変わらない傾向にある。中通り、浜通りは減少している集落も見られるが、会津は増加が目立つ。

イノシシの農林業被害の増減

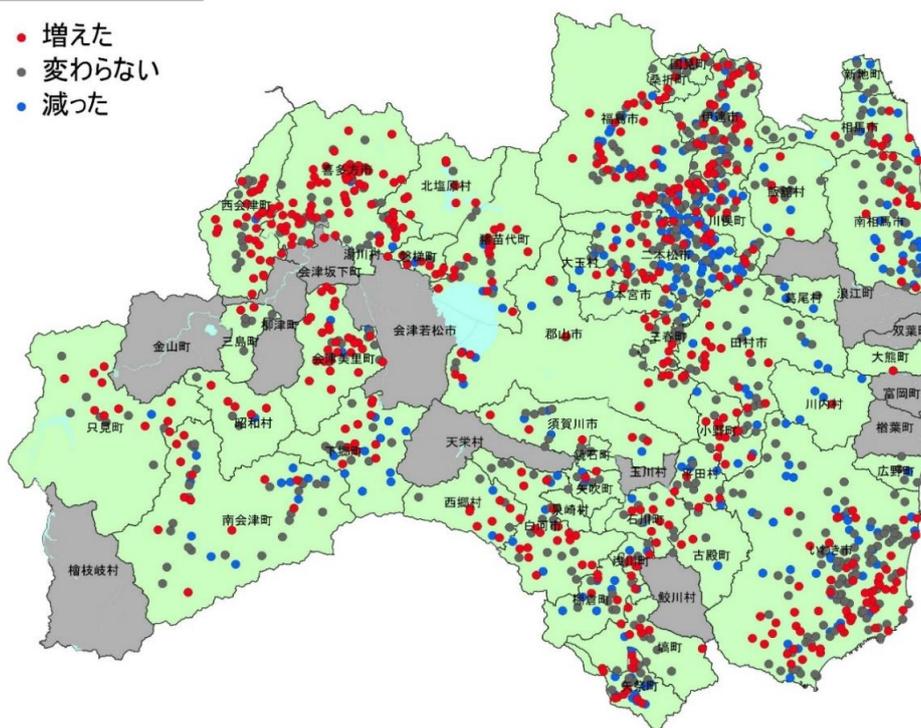
昨年度比

- 増えた
- 変わらない
- 減った



5年前比

- 増えた
- 変わらない
- 減った

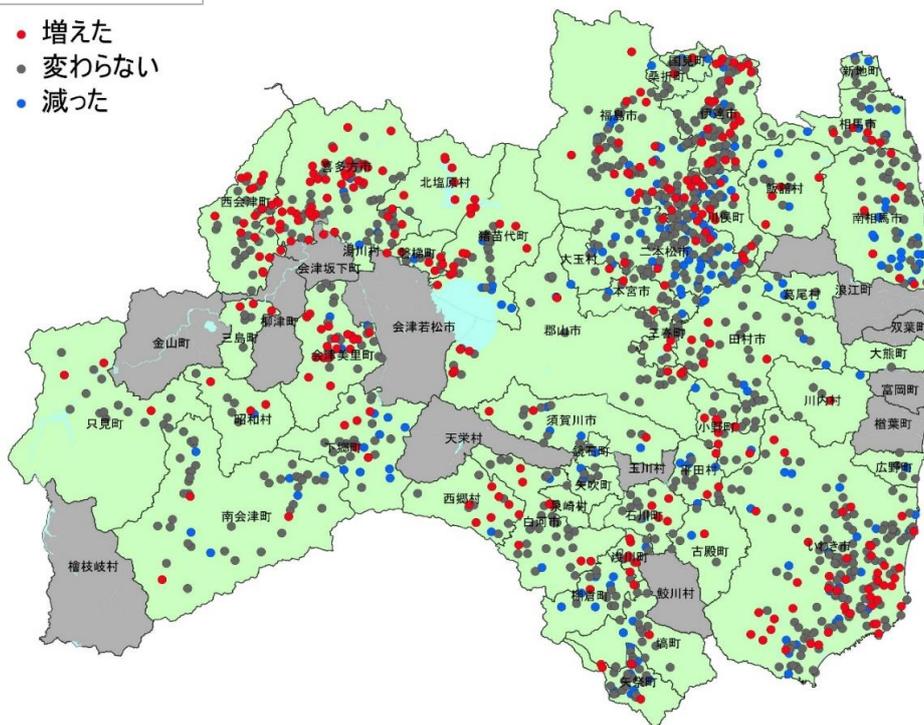


イノシシによる農林業被害は、昨年度比、5年前比とも県内全域で「増加」および「変わらない」が多く見られる。

イノシシの生活被害の増減

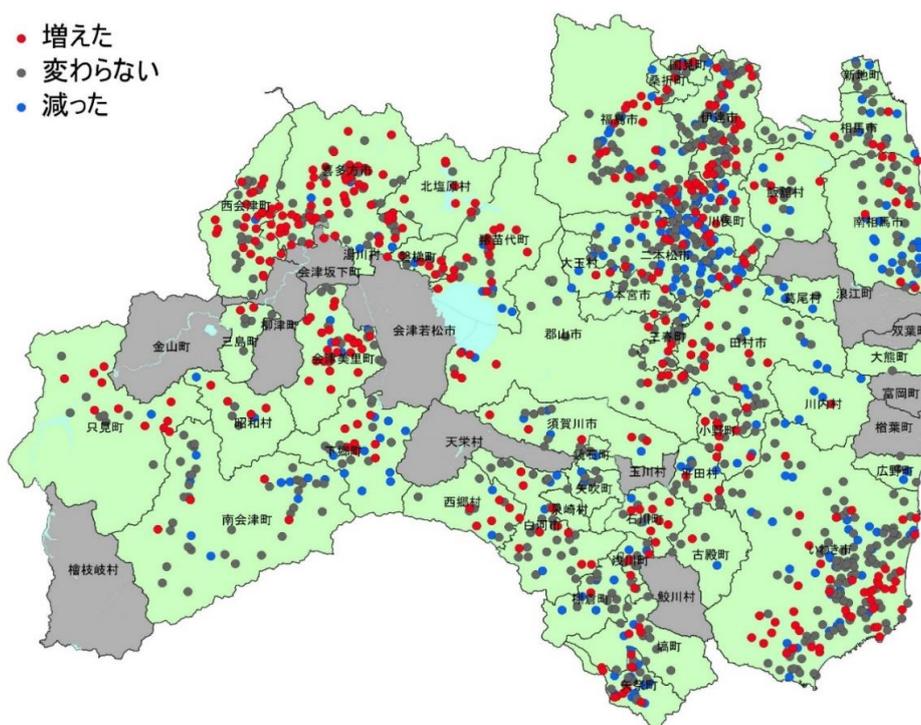
昨年度比

- 増えた
- 変わらない
- 減った



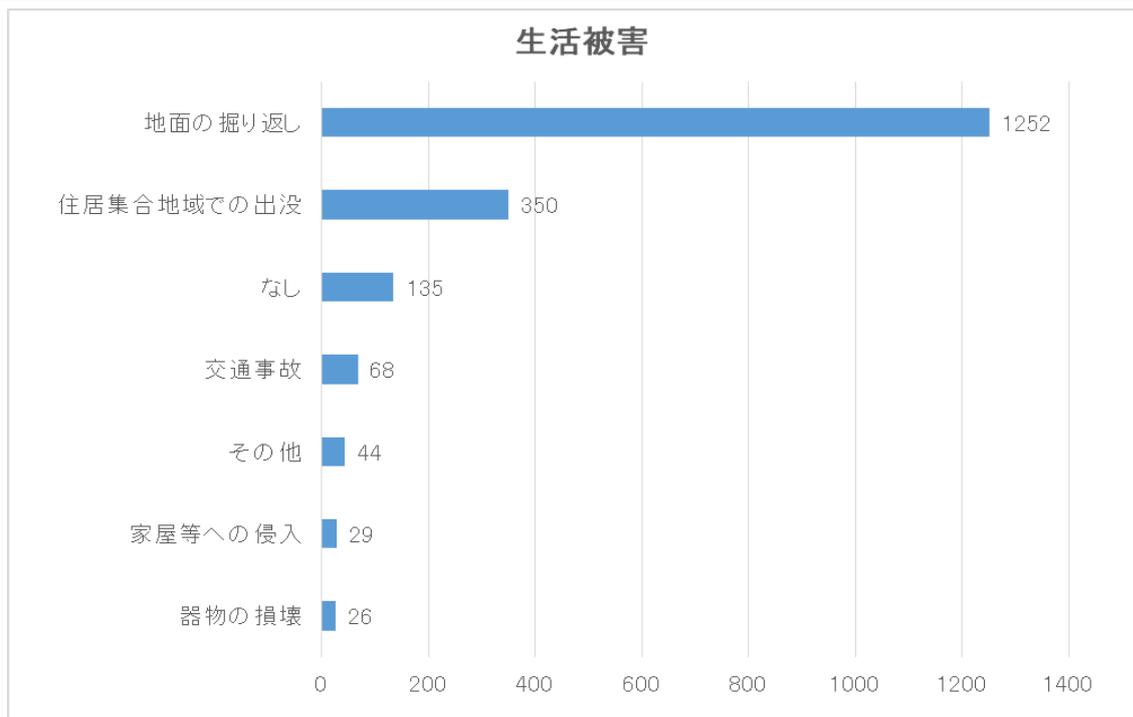
5年前比

- 増えた
- 変わらない
- 減った



イノシシによる生活被害は、昨年度比、5年前比とも県内全域で「増加」および「変わらない」が多く見られる。

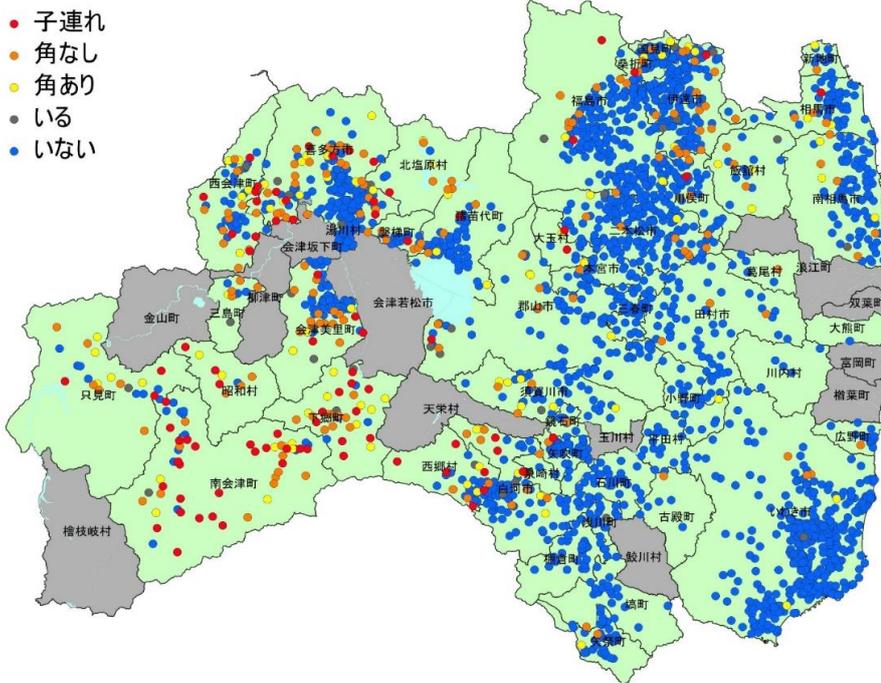
イノシシの生活被害の内容



イノシシによる生活被害は、被害があると回答した1,769件のうち「地面の掘り返し」と回答した集落が1,252件であった。

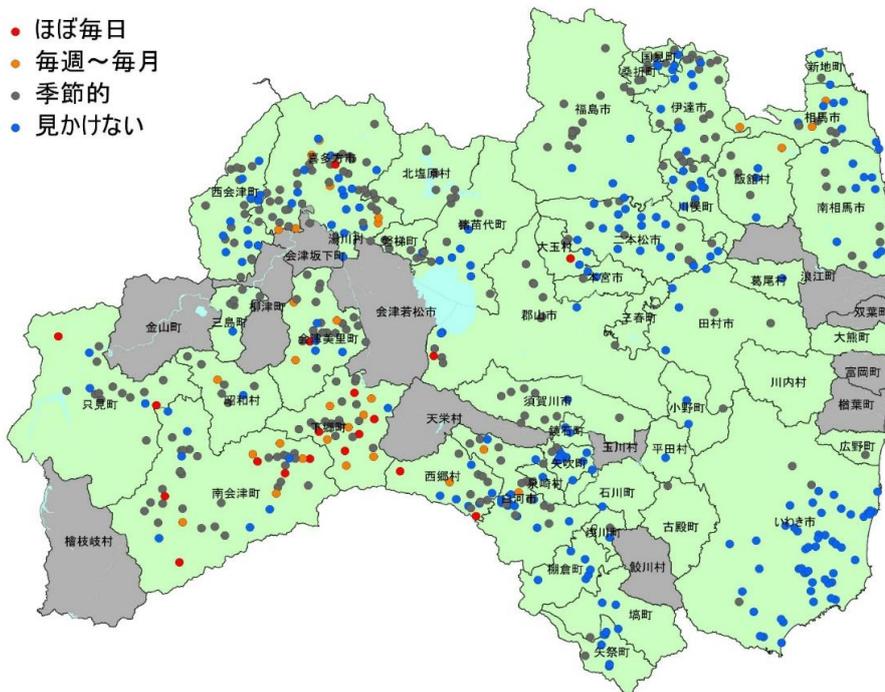
ニホンジカの被害状況

ニホンジカの生息状況



ニホンジカの生息状況は、会津地方から中通りにかけて繁殖定着地域が分布している。また、浜通りの北部にも繁殖定着地域が見られる。「子連れ」や「角なし」の回答が多い地域では、今後、個体数が増加していく可能性があるため、注意が必要である。

ニホンジカの日撃頻度

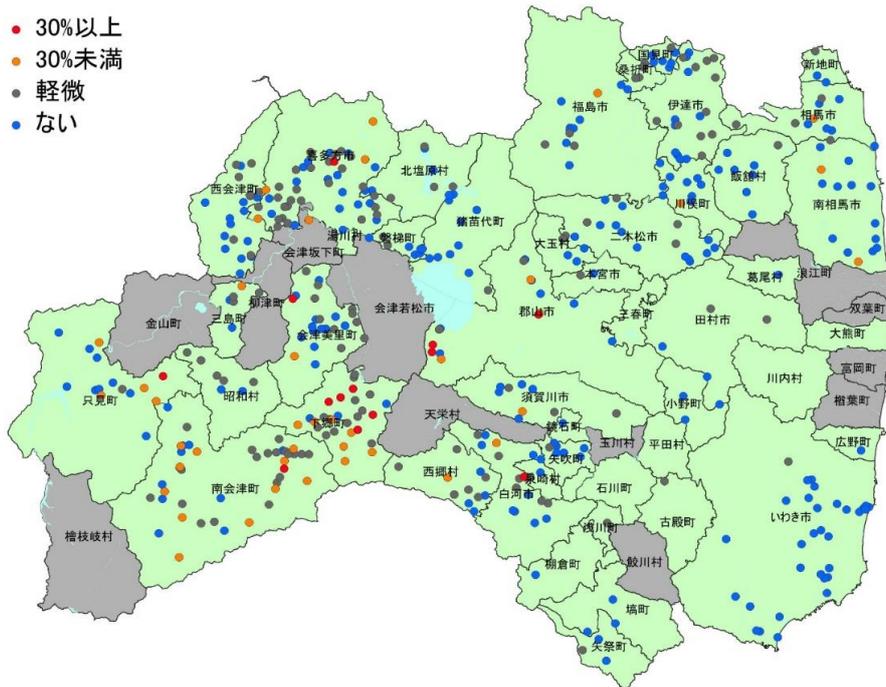


ニホンジカの日撃頻度は、県内全域で季節的な出没が多く見られる。

ニホンジカの被害・対策状況

ニホンジカの被害の程度

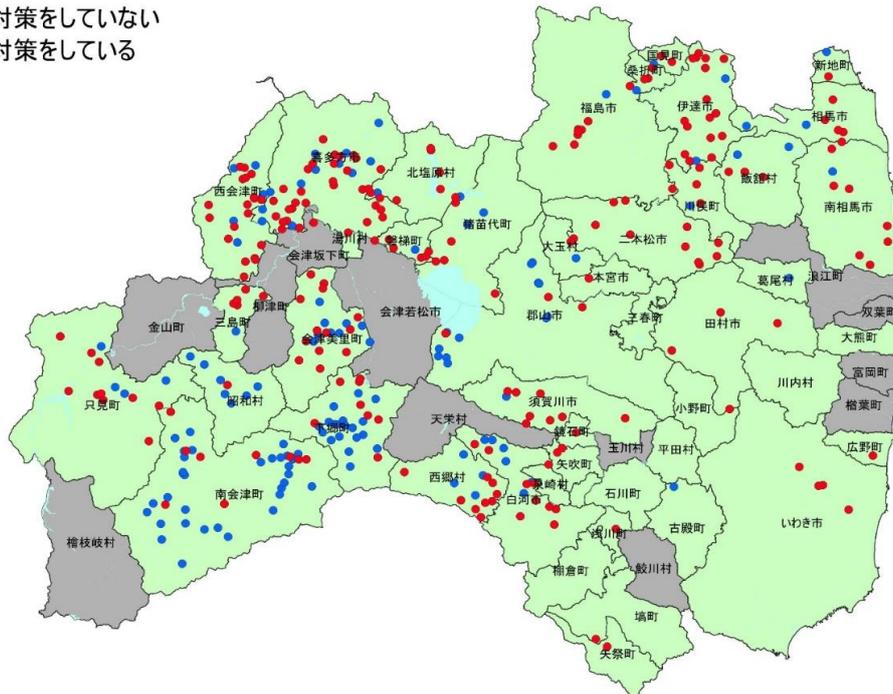
- 30%以上
- 30%未満
- 軽微
- ない



ニホンジカによる被害の程度は、県内全域で「軽微」との回答が多く見られるが、会津地方では、「30%未満」および「30%以上」との回答が目立つ。

ニホンジカの被害対策の実施

- 対策をしていない
- 対策をしている

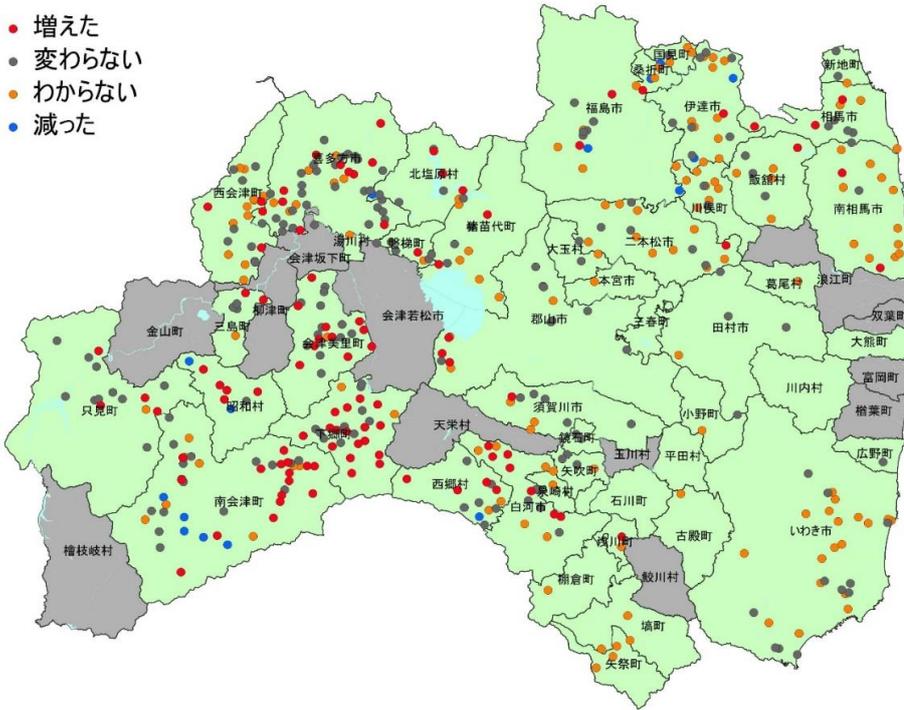


ニホンジカが定着している集落で、被害対策について回答のあった366件のうち、対策を行っていない集落は226件（62%）あった。

ニホンジカの生息状況の増減

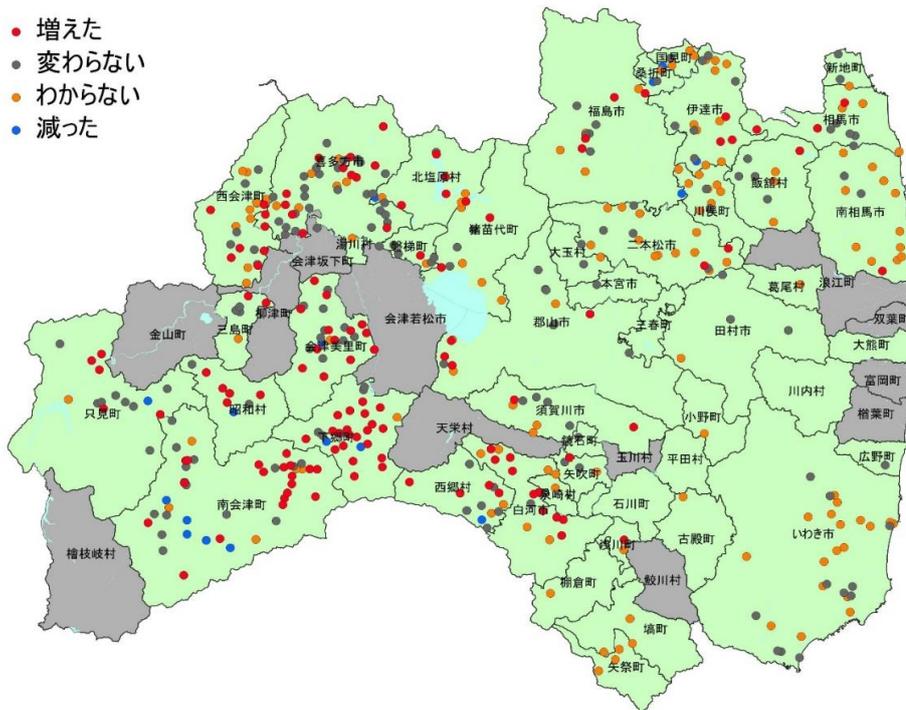
昨年度比

- 増えた
- 変わらない
- わからない
- 減った



5年前比

- 増えた
- 変わらない
- わからない
- 減った

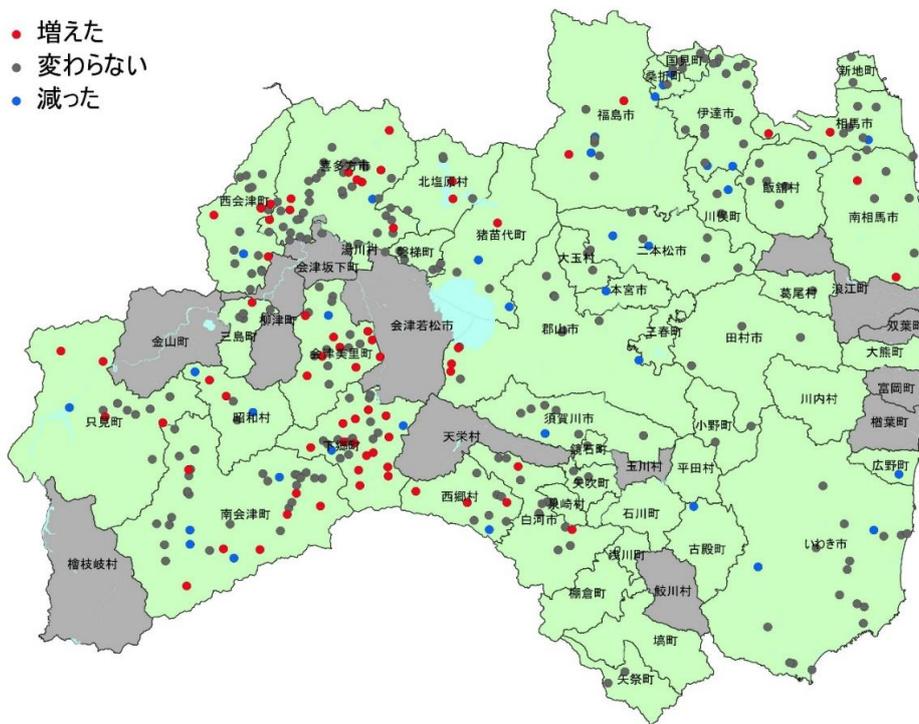


ニホンジカの生息状況は、会津地方および県南地域にかけて「増えた」との回答が多くみられるほか、ほぼ全域で変わらない傾向にある。

ニホンジカの農林業被害の増減

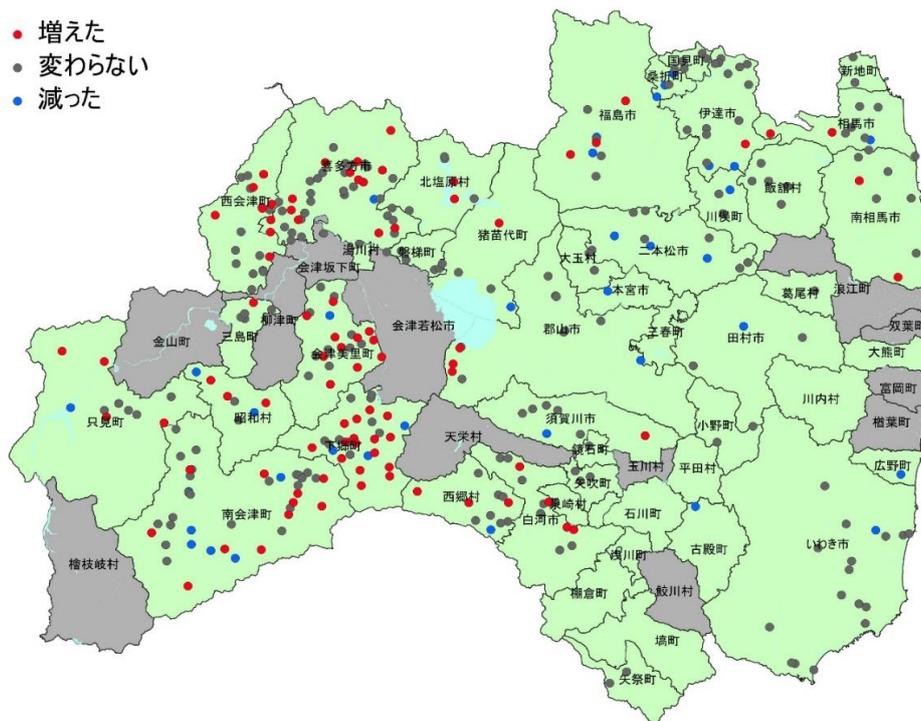
昨年度比

- 増えた
- 変わらない
- 減った



5年前比

- 増えた
- 変わらない
- 減った

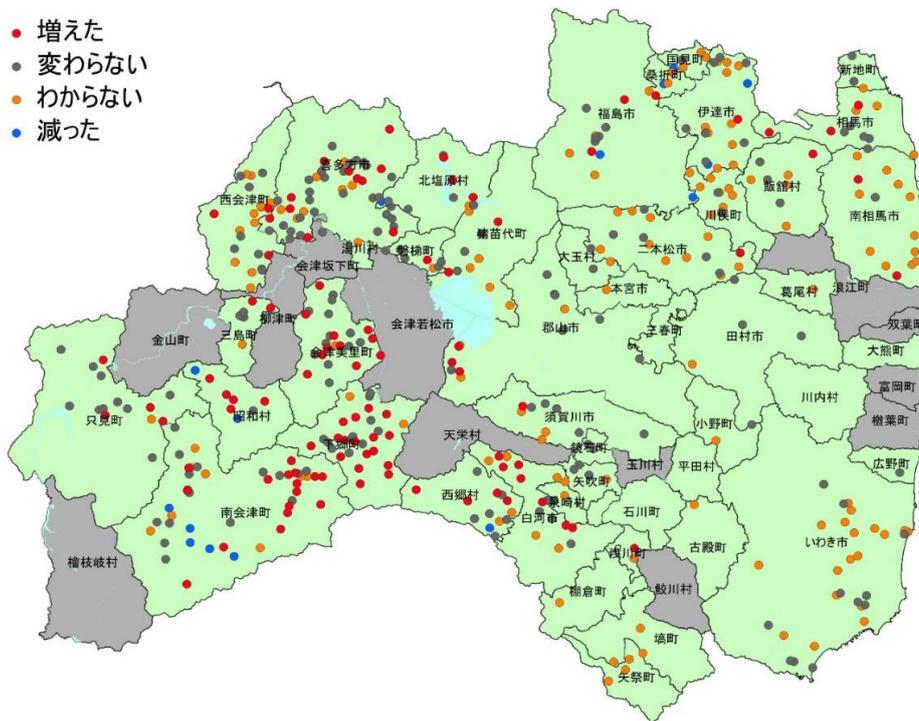


ニホンジカの農林業被害は、会津地方および県南地域にかけて「増えた」との回答が多くみられるほか、全域で「変わらない」との回答となった。

ニホンジカ的生活被害の増減

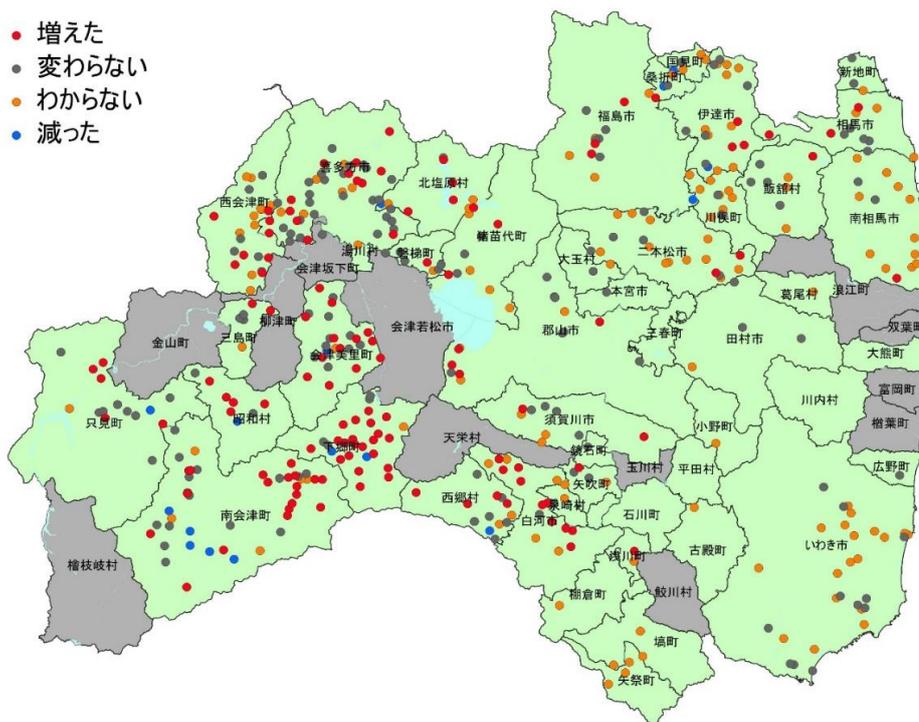
昨年度比

- 増えた
- 変わらない
- わからない
- 減った



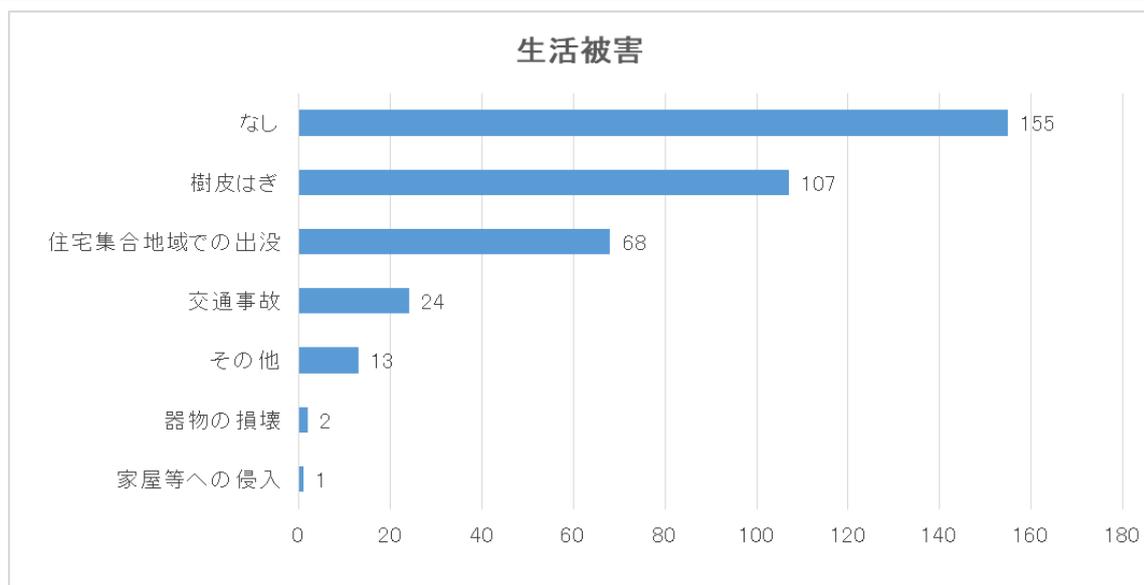
5年前比

- 増えた
- 変わらない
- わからない
- 減った



ニホンジカによる生活被害は、昨年度比、5年前比とも県内全域で「増加」および「変わらない」が多く見られる。

ニホンジカの生活被害の内容

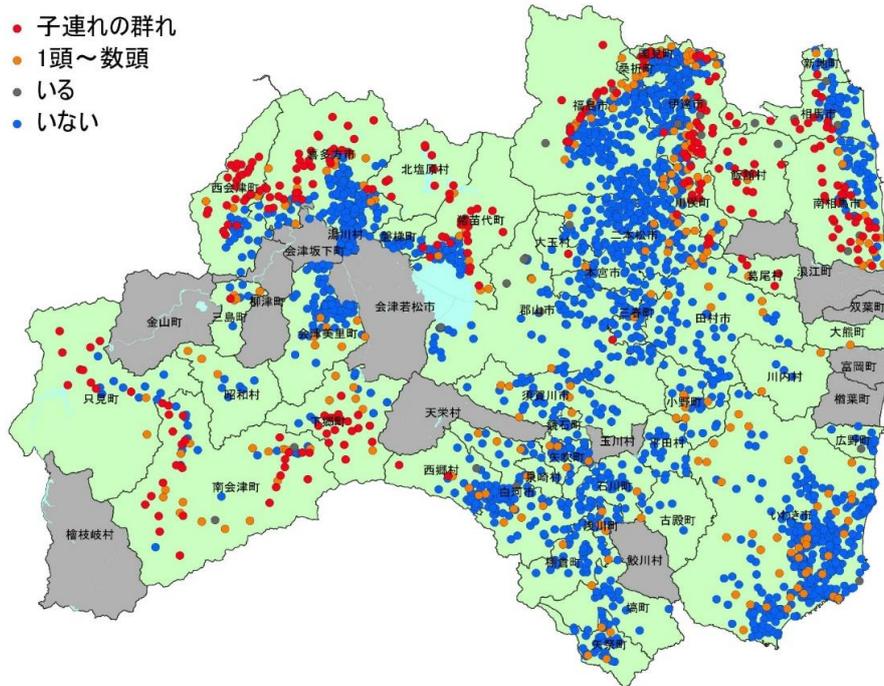


ニホンジカによる生活被害は、被害があると回答した215件のうち「樹皮はぎ」が107件と最も多く、次いで「住宅集合地域での出没」が68件であった。

ニホンザルの被害状況

ニホンザルの生息状況

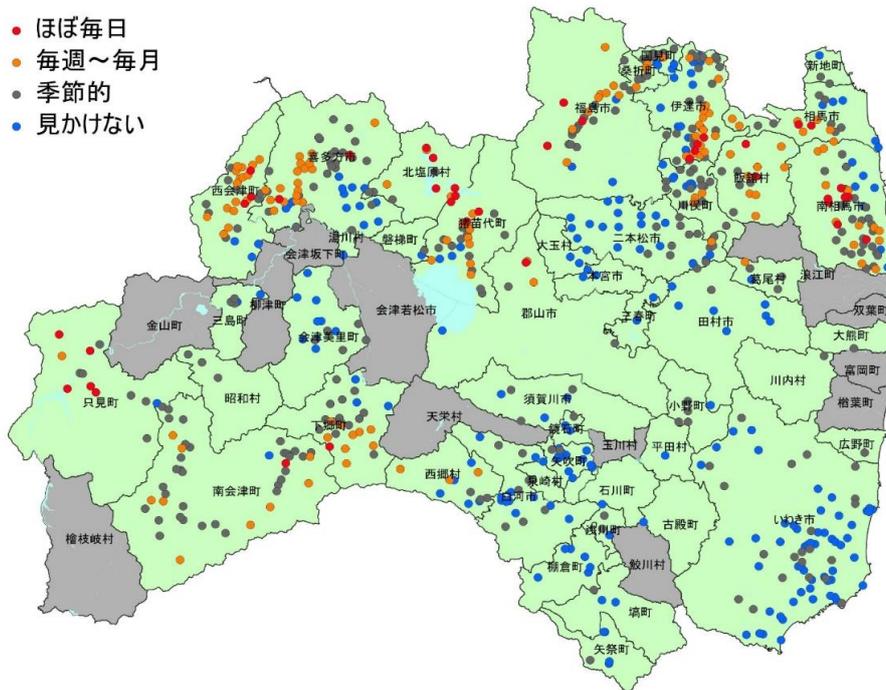
- 子連れの群れ
- 1頭～数頭
- いる
- いない



ニホンザルの生息状況は、県北地域、会津地方、相双地域に子連れの群れが多く分布しており、県南地方やいわき市では「1頭～数頭」の回答が多く、広域に点在していた。

ニホンザルの目撃頻度

- ほぼ毎日
- 毎週～毎月
- 季節的
- 見かけない

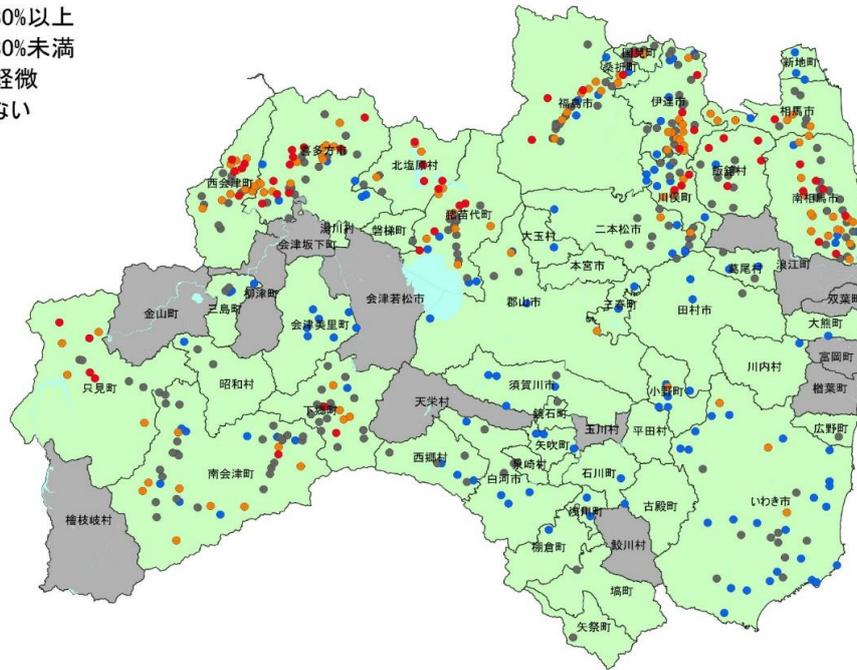


ニホンザルの目撃頻度は、県内全域で季節的な出没が多く見られる。

ニホンザルの被害・対策状況

ニホンザルの被害の程度

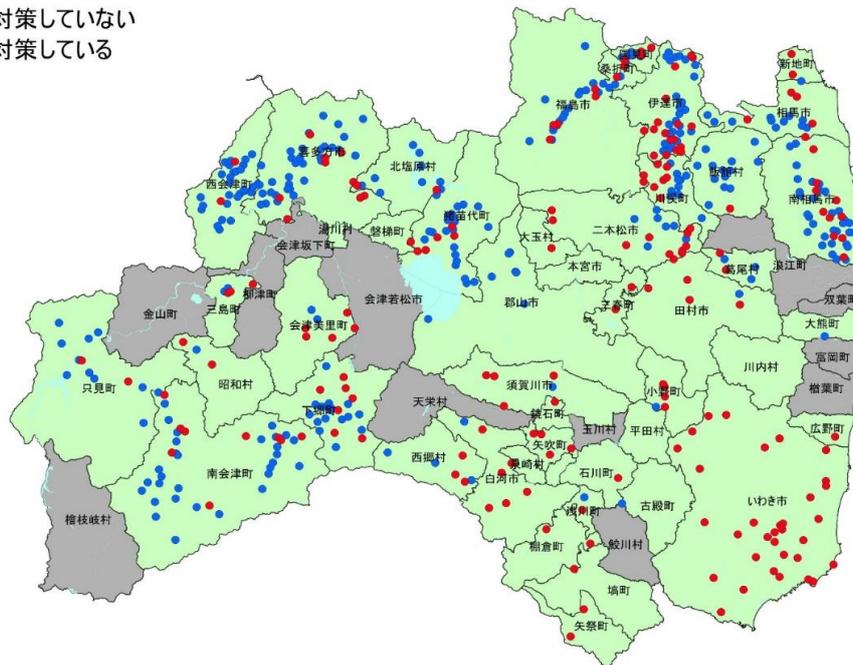
- 30%以上
- 30%未満
- 軽微
- ない



ニホンザルによる被害の程度は、「子連れ」が確認されている地域では、「30%以上」や「30%未満」との回答と「軽微」との回答が混在していた。

ニホンザルの被害対策の実施

- 対策していない
- 対策している

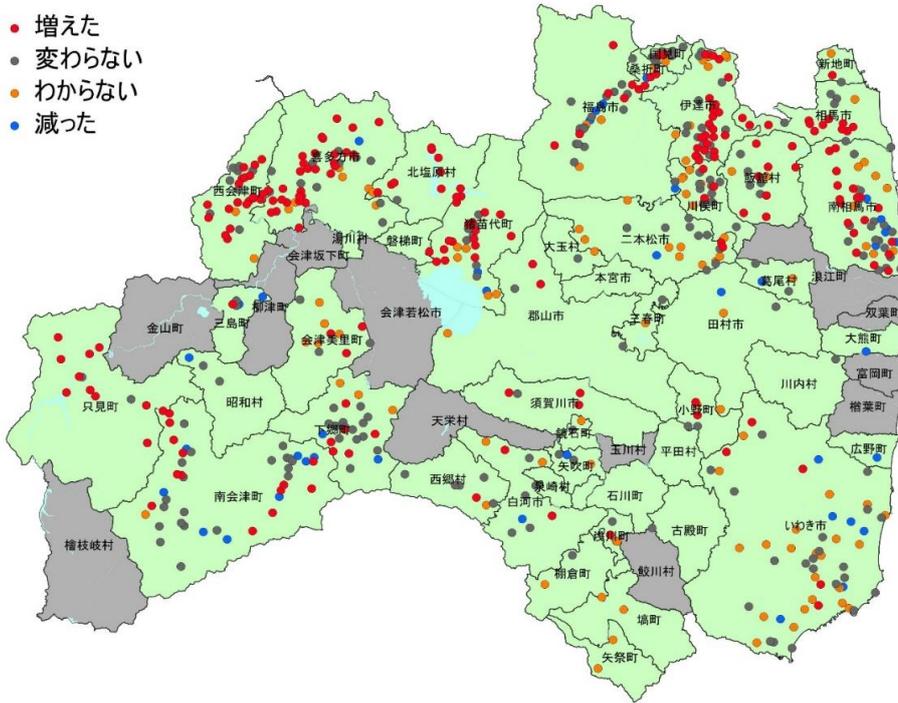


ニホンザルが定着している集落で、被害対策について回答のあった494件のうち、対策を行っていない集落は186件（38%）あった。

ニホンザルの生息状況の増減

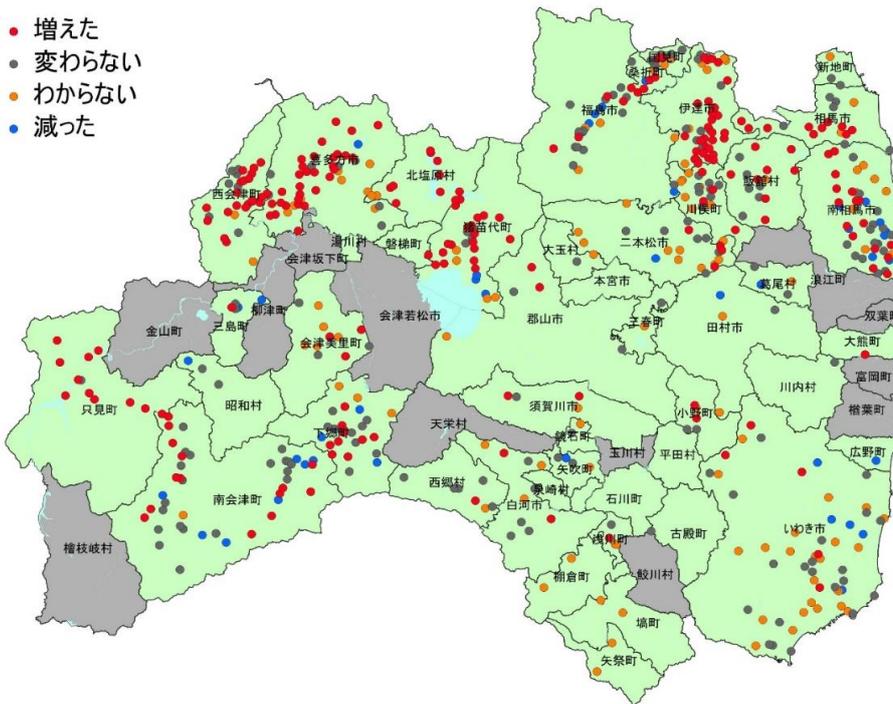
昨年度比

- 増えた
- 変わらない
- わからない
- 減った



5年前比

- 増えた
- 変わらない
- わからない
- 減った

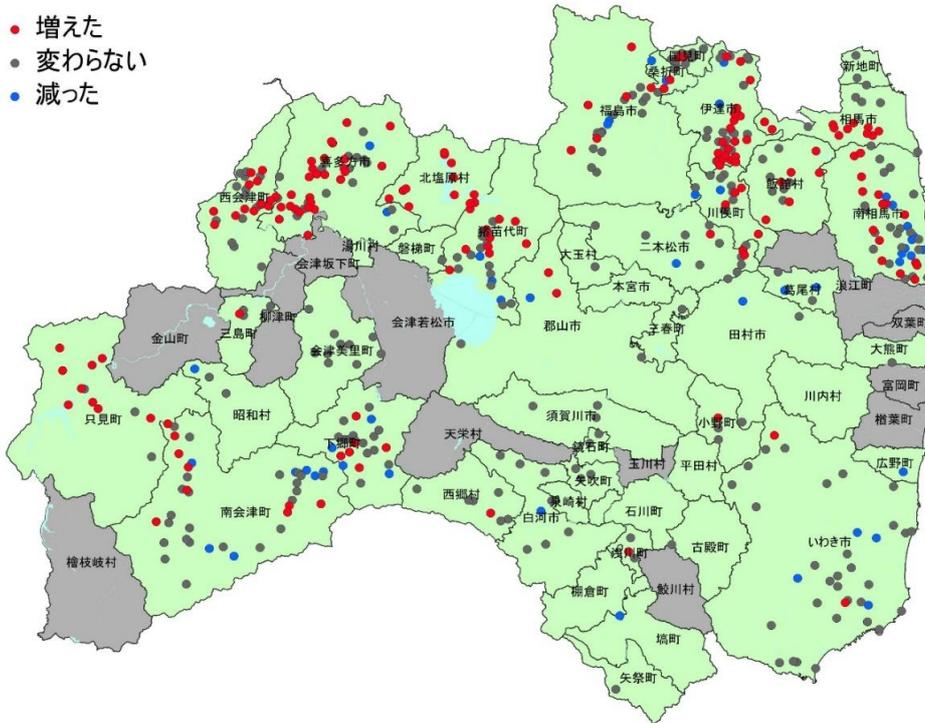


ニホンザルの生息状況は、県北地域、県南地域、相双地域、会津地方で増加もしくは変わらない傾向にある。5年前と昨年度を比べ、南会津地域では「変わらない」との回答が多くなっている。

ニホンザルの農林業被害の増減

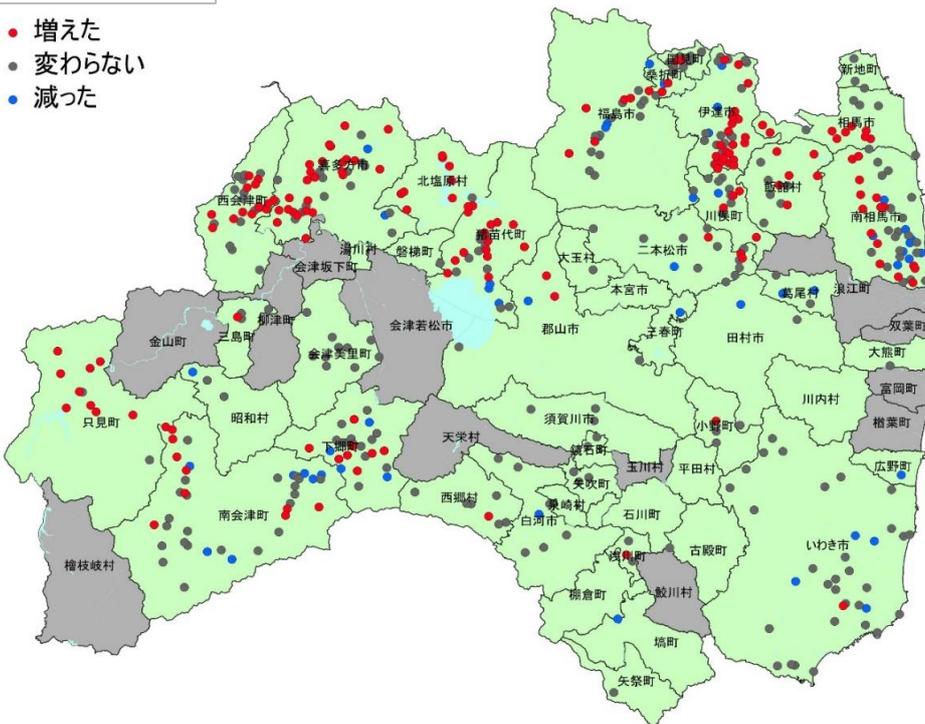
昨年度比

- 増えた
- 変わらない
- 減った



5年前比

- 増えた
- 変わらない
- 減った



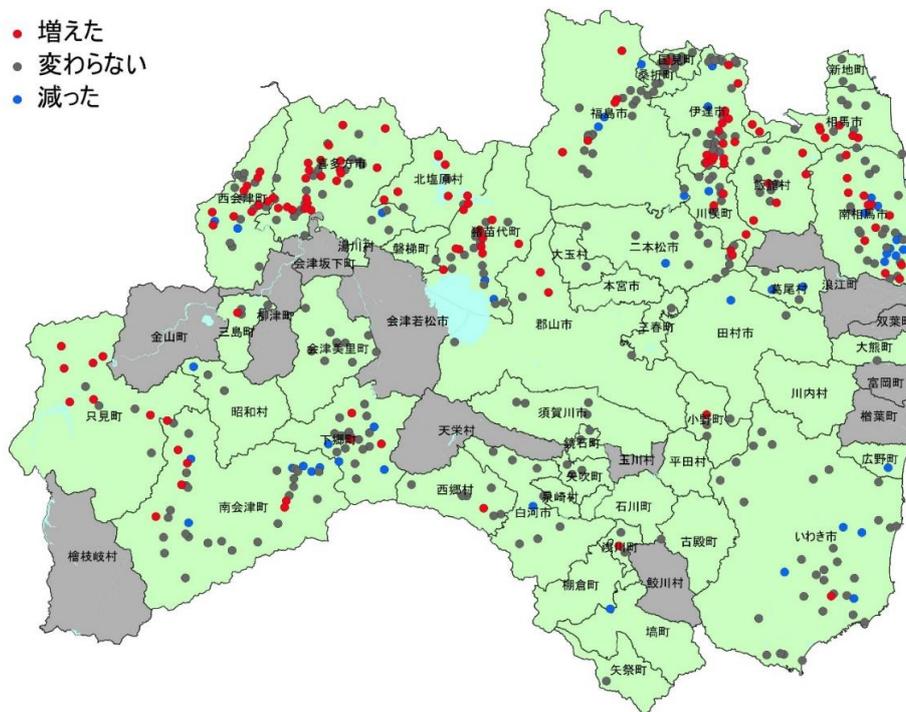
ニホンザルの農林業被害は、「子連れ」が確認されている地域では、「増えた」や「変わらない」との回答が多く、その他の地域では、「変わらない」との回答が多く見られた。

「子連れ」が確認されている地域は、被害が増加傾向にあることから、特に注意が必要である。

ニホンザルの生活被害の増減

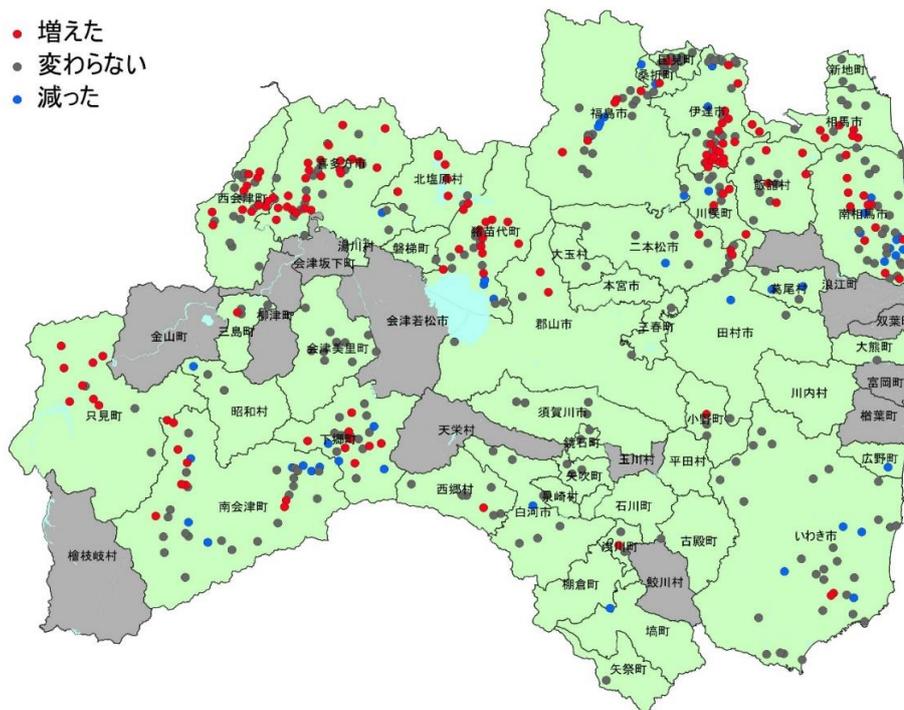
昨年度比

- 増えた
- 変わらない
- 減った



5年前比

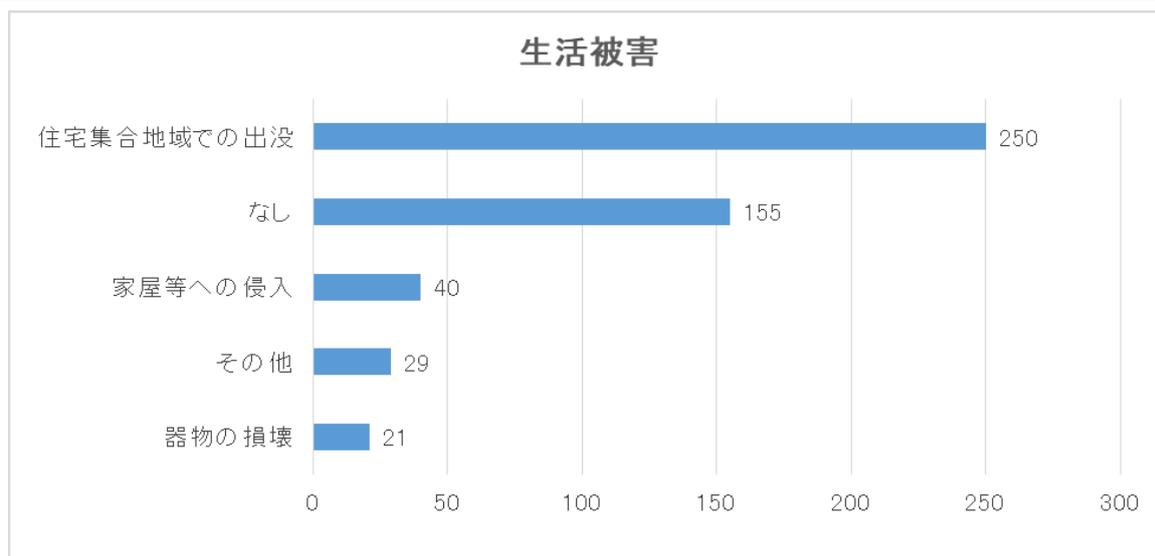
- 増えた
- 変わらない
- 減った



ニホンザルによる生活被害は、「子連れ」が確認されている地域では、「増えた」や「変わらない」との回答が多く、その他の地域では、「変わらない」との回答が多く見られた。

「子連れ」が確認されている地域は、被害が増加傾向にあることから、特に注意が必要である。

ニホンザルの生活被害の内容

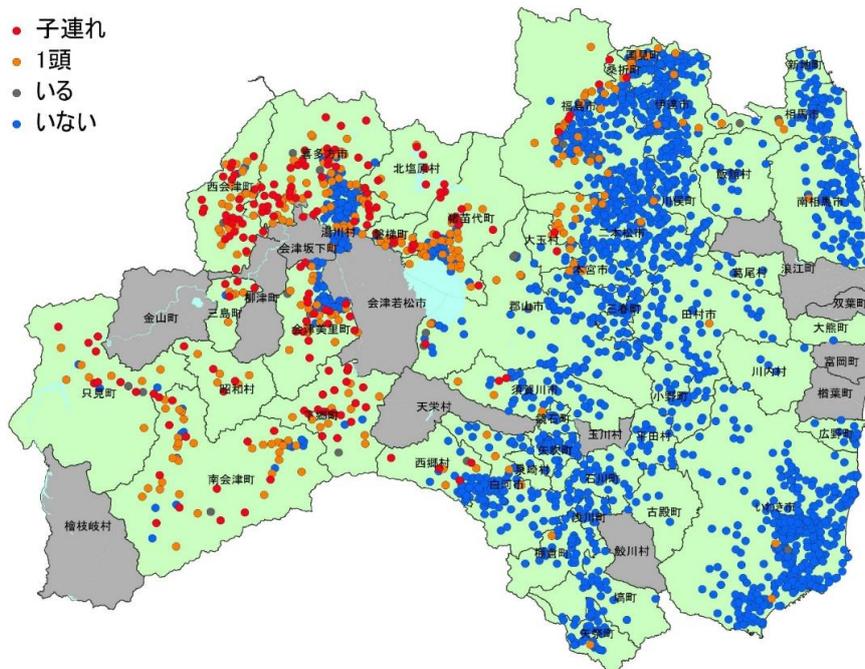


ニホンザルによる主な被害は、被害があると回答した627件のうち野菜が296件と最も多く、次いで果樹が242件であった。

ツキノワグマの被害状況

ツキノワグマの生息状況

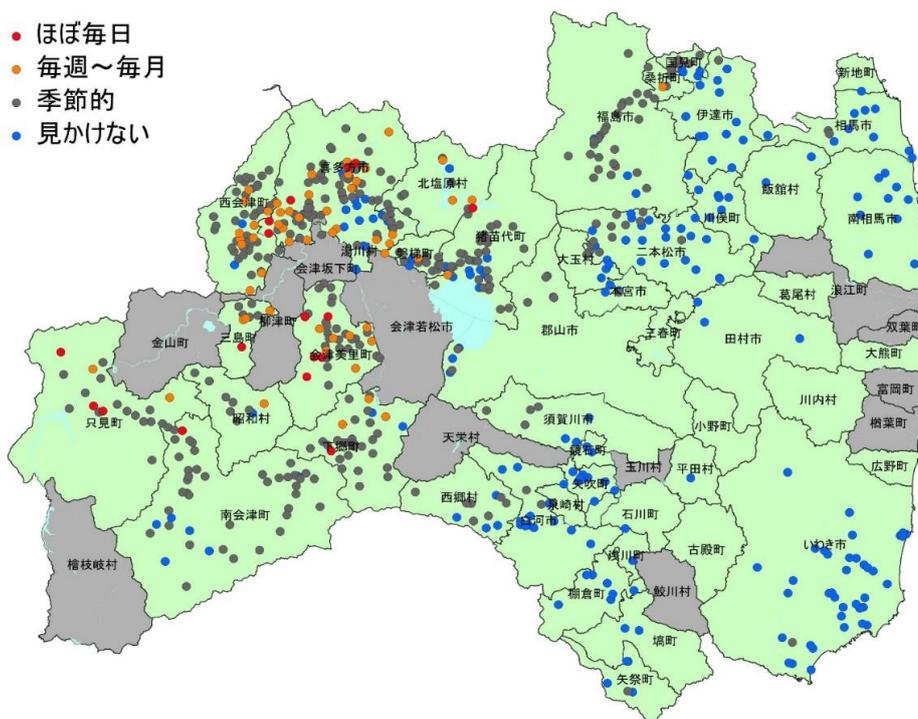
- 子連れ
- 1頭
- いる
- いない



ツキノワグマは、主に会津地方から中通り西部にかけて分布している。また、浜通りでは「いない」との回答が大半であったが、相馬市や南相馬市、いわき市などでは目撃されている。

ツキノワグマの目撃頻度

- ほぼ毎日
- 毎週～毎月
- 季節的
- 見かけない

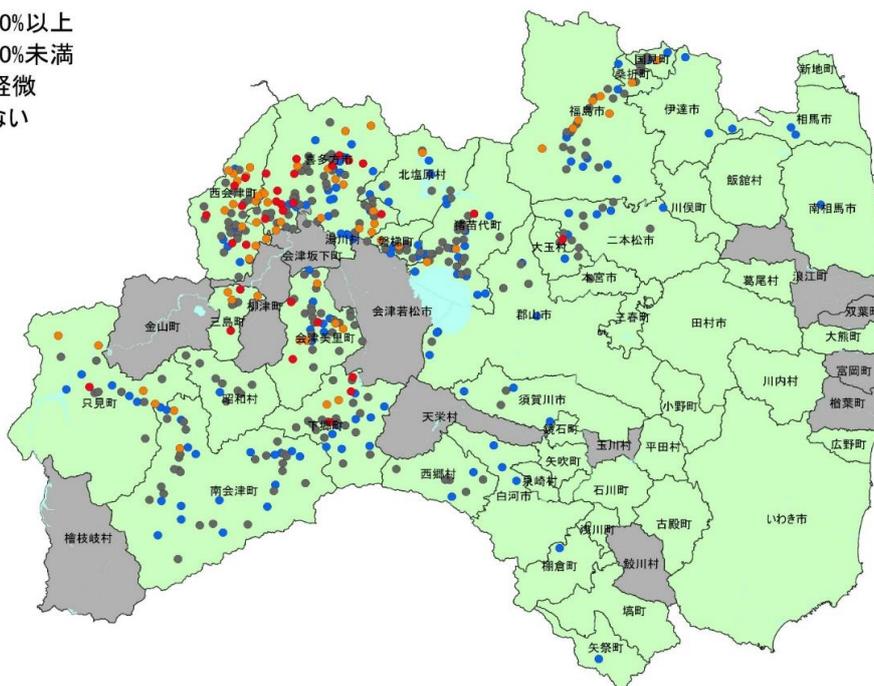


ツキノワグマの目撃頻度は、会津地方から中通り西部にかけて季節的な出没が多く見られる。

ツキノワグマの被害・対策状況

ツキノワグマの被害の程度

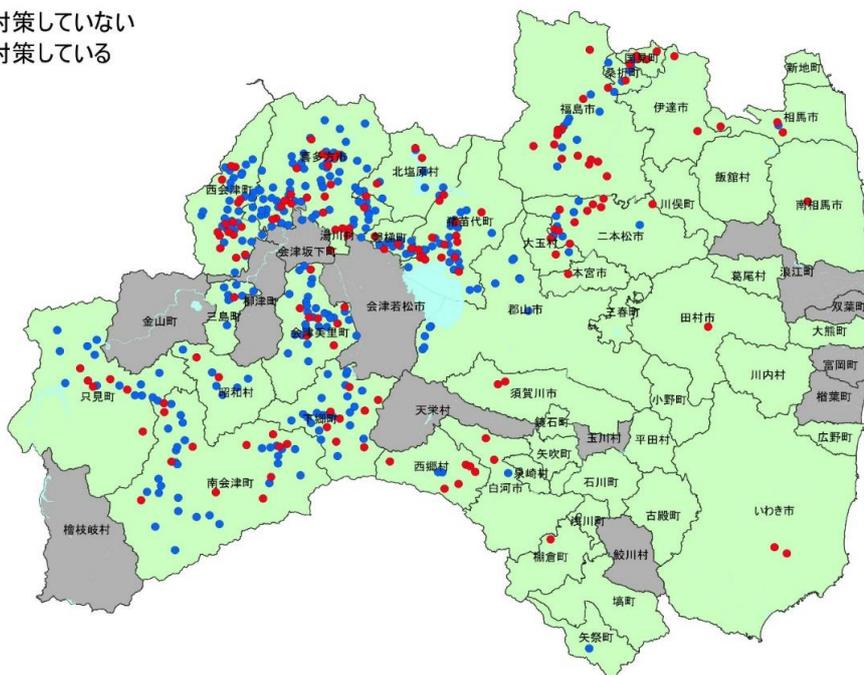
- 30%以上
- 30%未満
- 軽微
- ない



ツキノワグマによる被害の程度は、県内全域で「軽微」との回答が多く見られるが、会津地方では、「30%未満」および「30%以上」との回答が目立つ。

ツキノワグマの被害対策の実施

- 対策していない
- 対策している

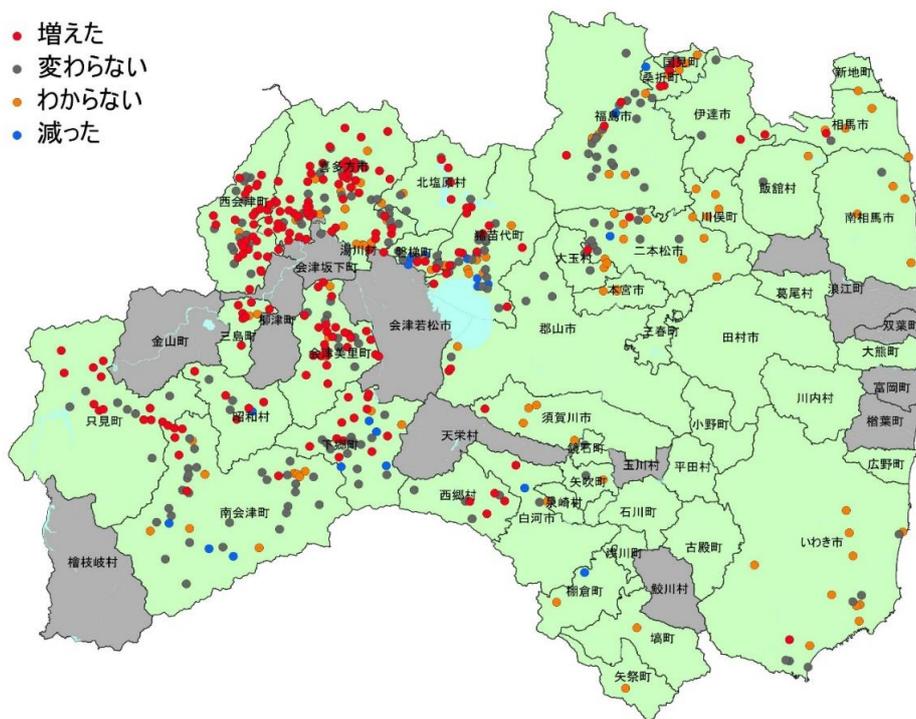


ツキノワグマが定着している集落で、被害対策について回答のあった449件のうち、対策を行っていない集落は155件（35%）あった。

ツキノワグマの生息状況の増減

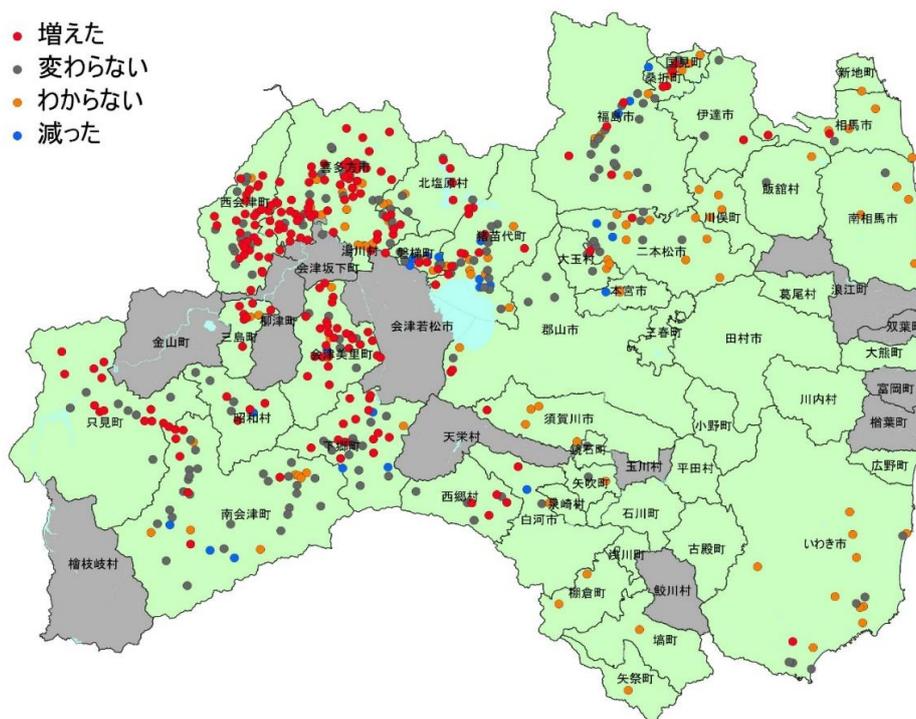
昨年度比

- 増えた
- 変わらない
- わからない
- 減った



5年前比

- 増えた
- 変わらない
- わからない
- 減った

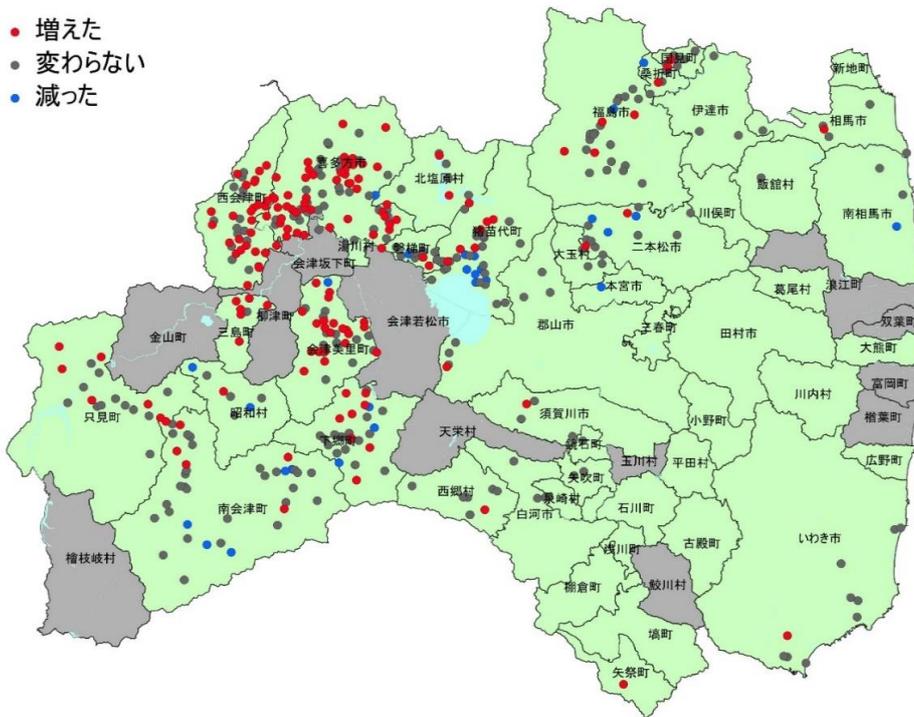


ツキノワグマの生息状況は、ツキノワグマが分布している地域のほとんどで、増加もしくは変わらない傾向にある。特に会津地方と県北地域、県南地域に「増えた」との回答が多い。

ツキノワグマの農林業被害の増減

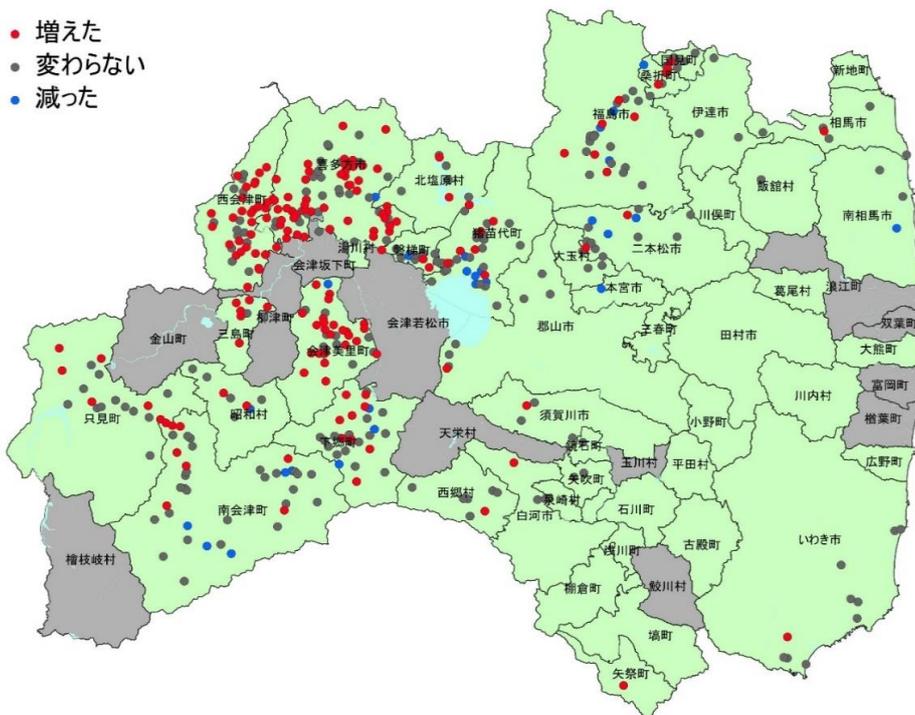
昨年度比

- 増えた
- 変わらない
- 減った



5年前比

- 増えた
- 変わらない
- 減った

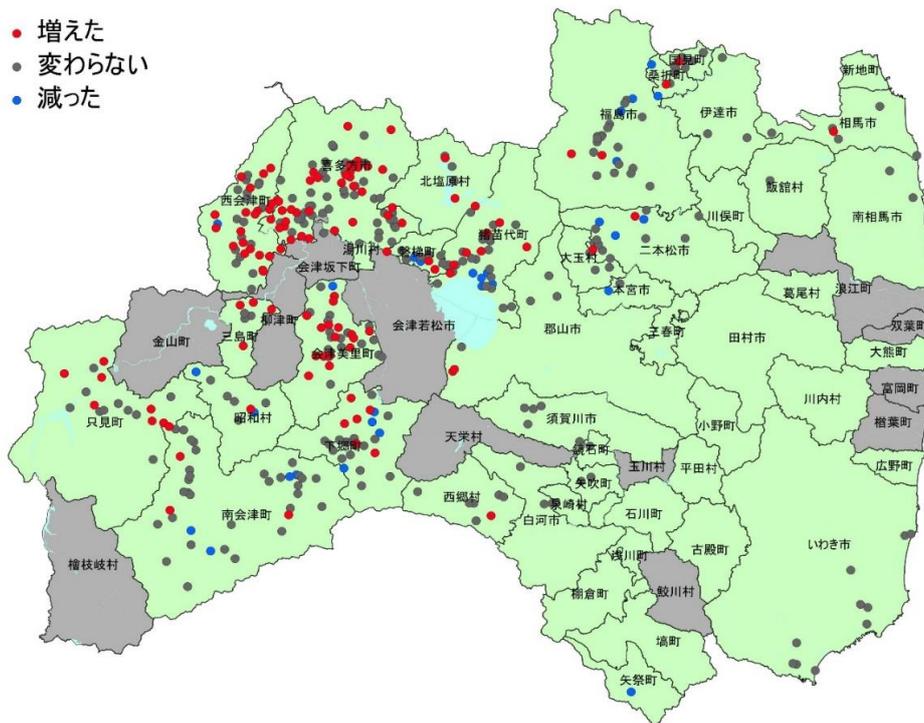


ツキノワグマの農林業被害は、会津地方および県北地域にかけて「増えた」との回答が多くみられるほか、全域で「変わらない」との回答となった。

ツキノワグマの生活被害の増減

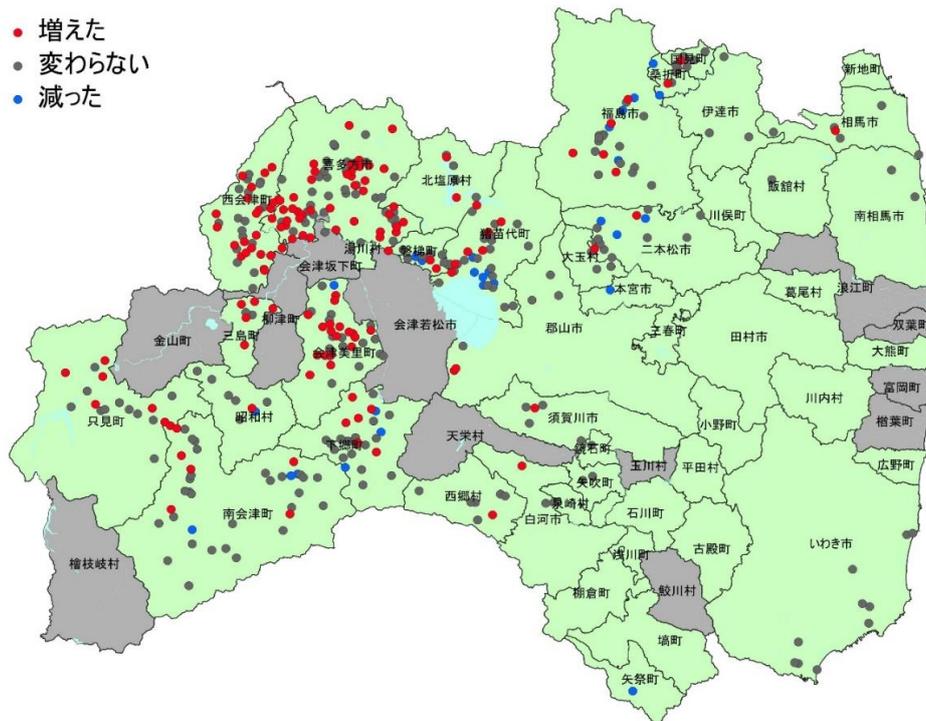
昨年度比

- 増えた
- 変わらない
- 減った



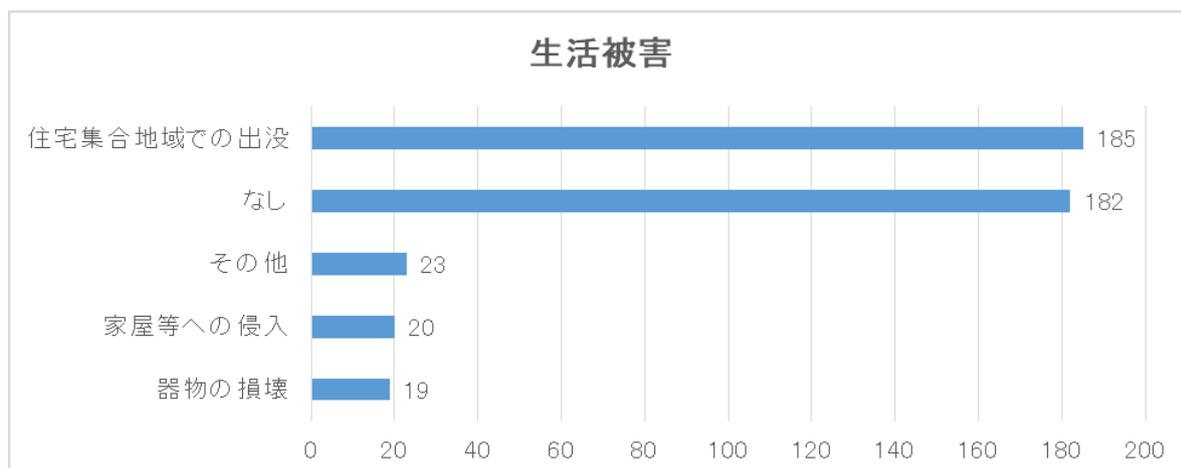
5年前比

- 増えた
- 変わらない
- 減った



ツキノワグマの生活被害は、会津地方および県北地域にかけて「増えた」との回答が多くみられるほか、全域で「変わらない」との回答となった。

ツキノワグマの生活被害の内容

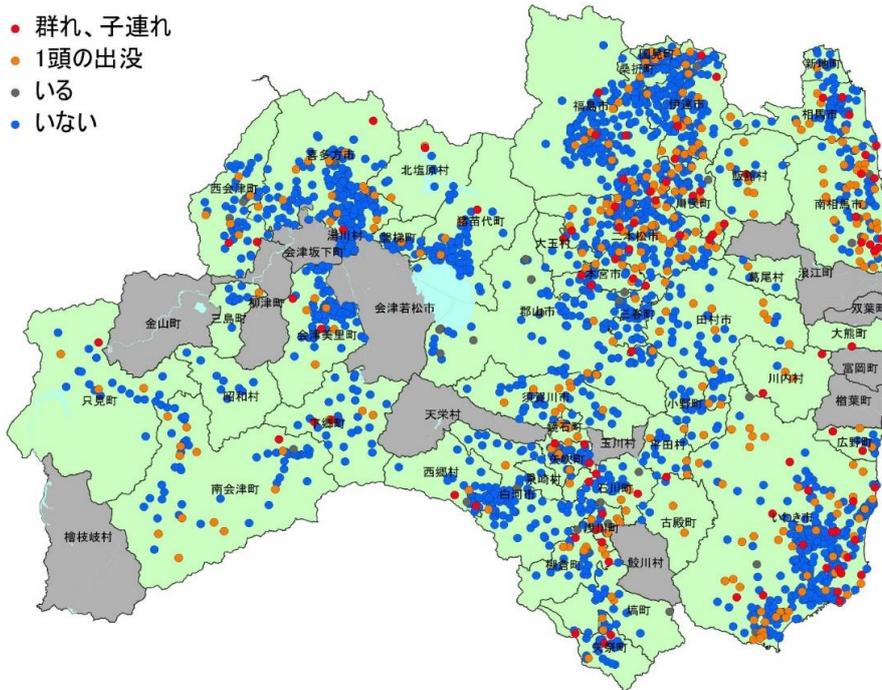


ツキノワグマによる主な被害は、被害があると回答した247件のうち、「住宅集合地域での出沒」が185件（75%）と被害の中で最も多かった。

アライグマの被害状況

アライグマの生息状況

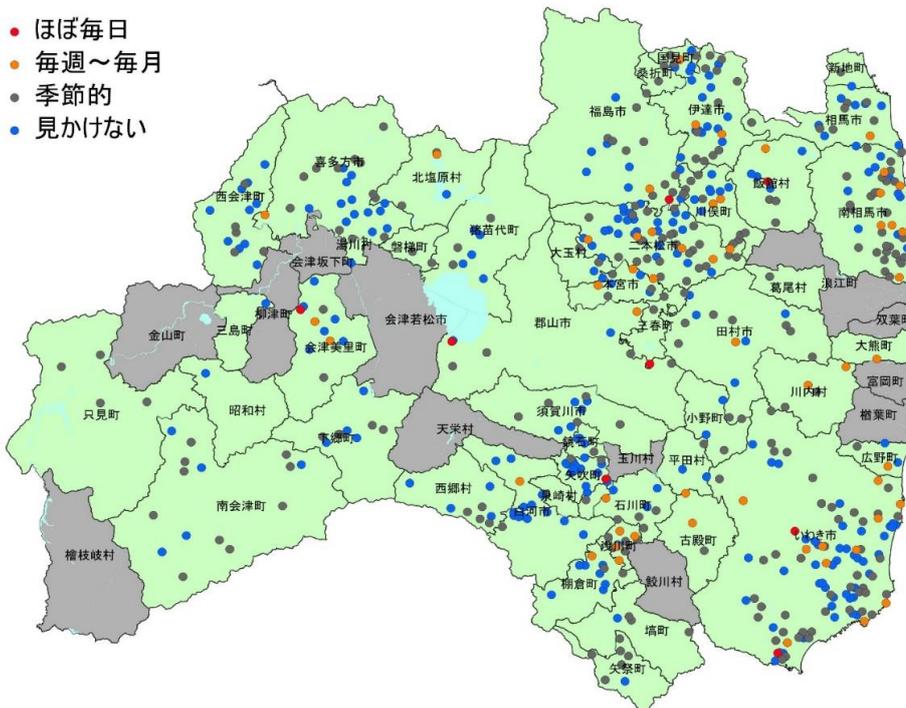
- 群れ、子連れ
- 1頭の出没
- いる
- いない



アライグマは、県内のほぼ全域に分布している。
県北地域、県南地域および浜通りでは、「群れ、子連れ」の回答が多く見られた。

アライグマの目撃頻度

- ほぼ毎日
- 毎週～毎月
- 季節的
- 見かけない

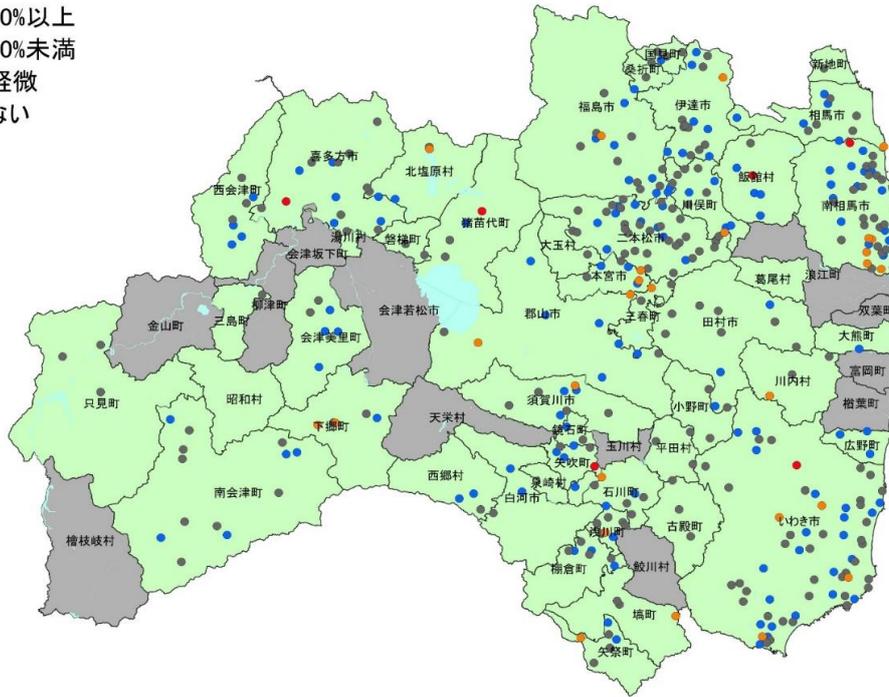


アライグマの目撃頻度は、県内全域で季節的な出没が多く見られる。

アライグマの被害・対策状況

アライグマの被害の程度

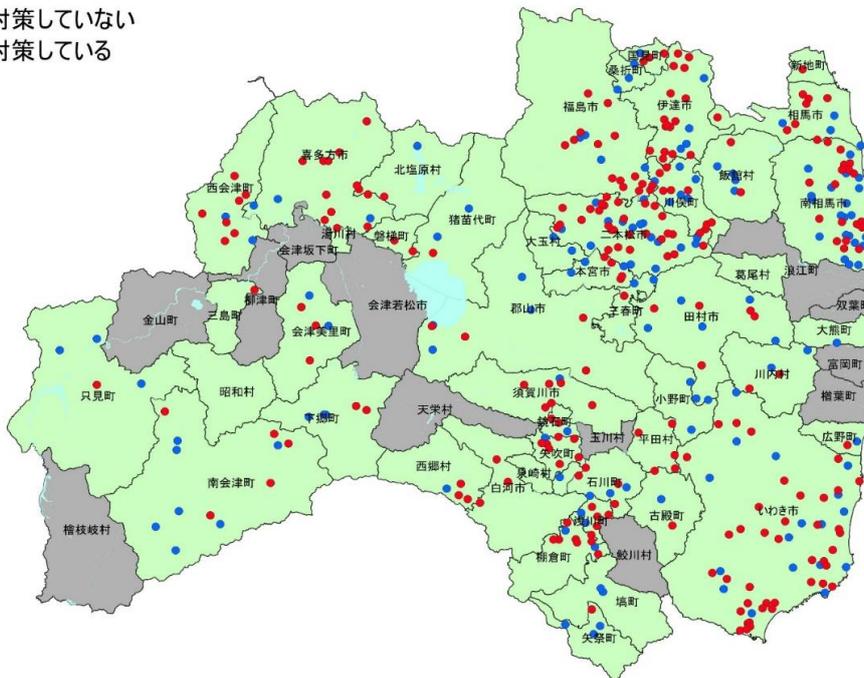
- 30%以上
- 30%未満
- 軽微
- ない



農林業被害のある245件のうち、「軽微」が210件（86%）を占める。
「30%以上」の集落は7件（3%）あった。

アライグマの被害対策の実施

- 対策していない
- 対策している

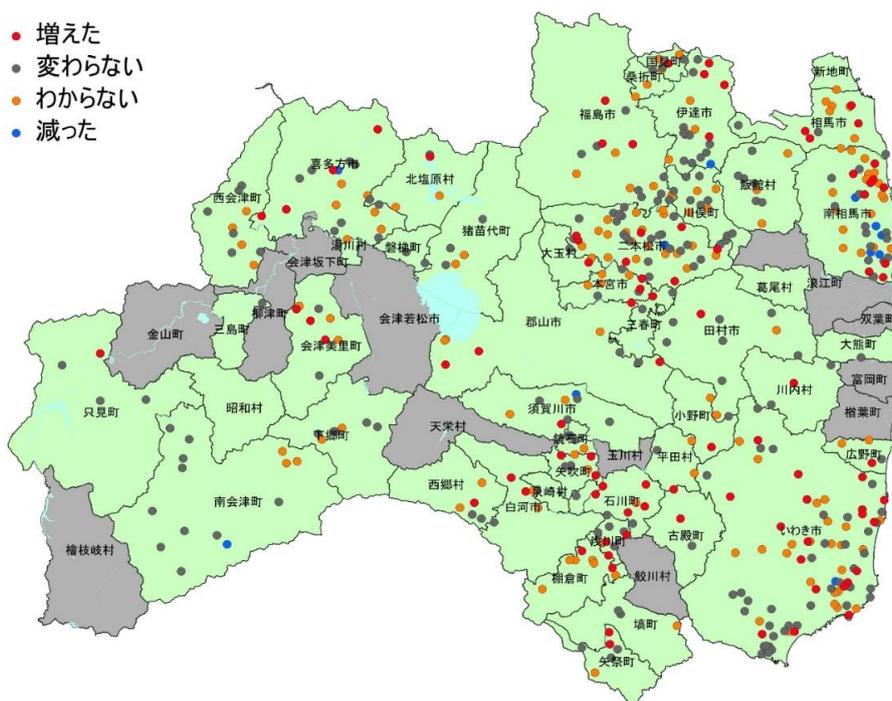


アライグマが定着している集落で、被害対策について回答のあった393件のうち、対策を行っていない集落は242件（62%）あった。

アライグマの生息状況の増減

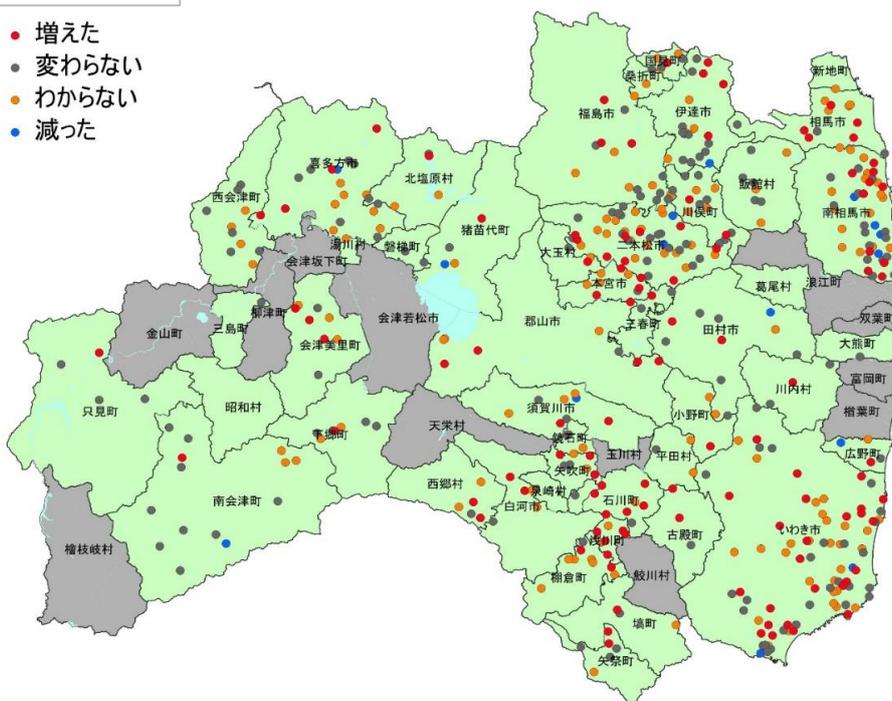
昨年度比

- 増えた
- 変わらない
- わからない
- 減った



5年前比

- 増えた
- 変わらない
- わからない
- 減った



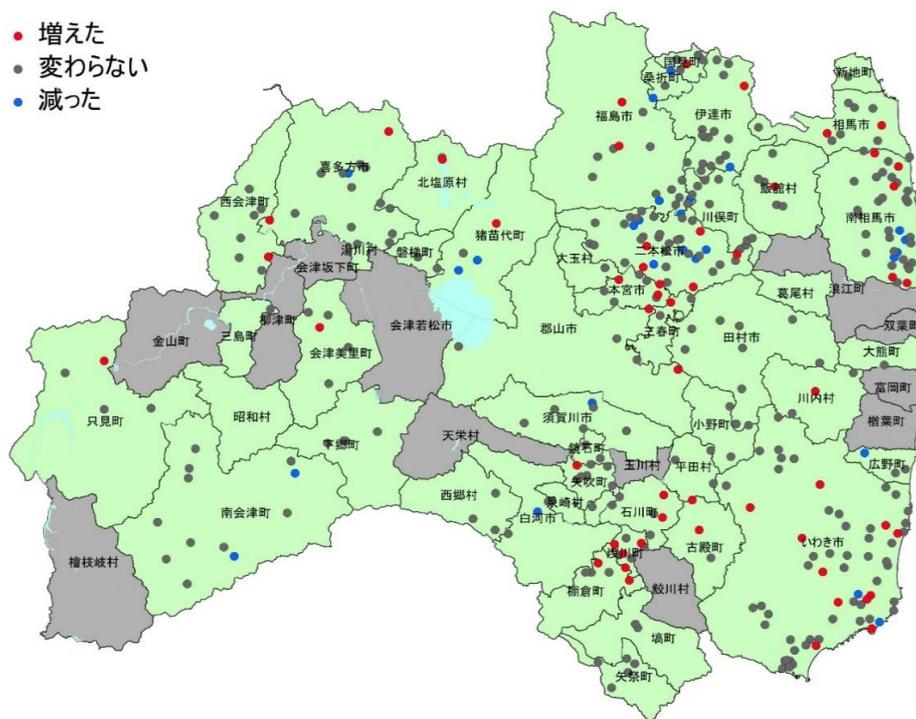
アライグマの生息状況は、アライグマが分布している地域のほとんどで、増加もしくは変わらない傾向にある。特に県北地域と県南地域、浜通りに「増えた」との回答が多い。

また、5年前と昨年度を比べ、県北地域、県南地域、いわき市では「変わらない」との回答が多くなっている。

アライグマの農林業被害の増減

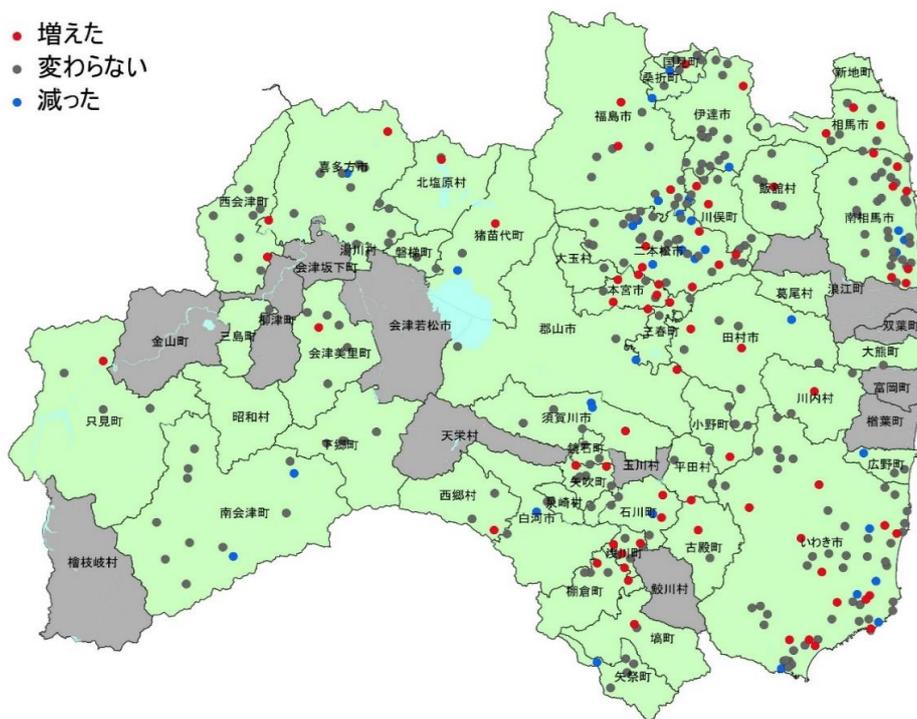
昨年度比

- 増えた
- 変わらない
- 減った



5年前比

- 増えた
- 変わらない
- 減った

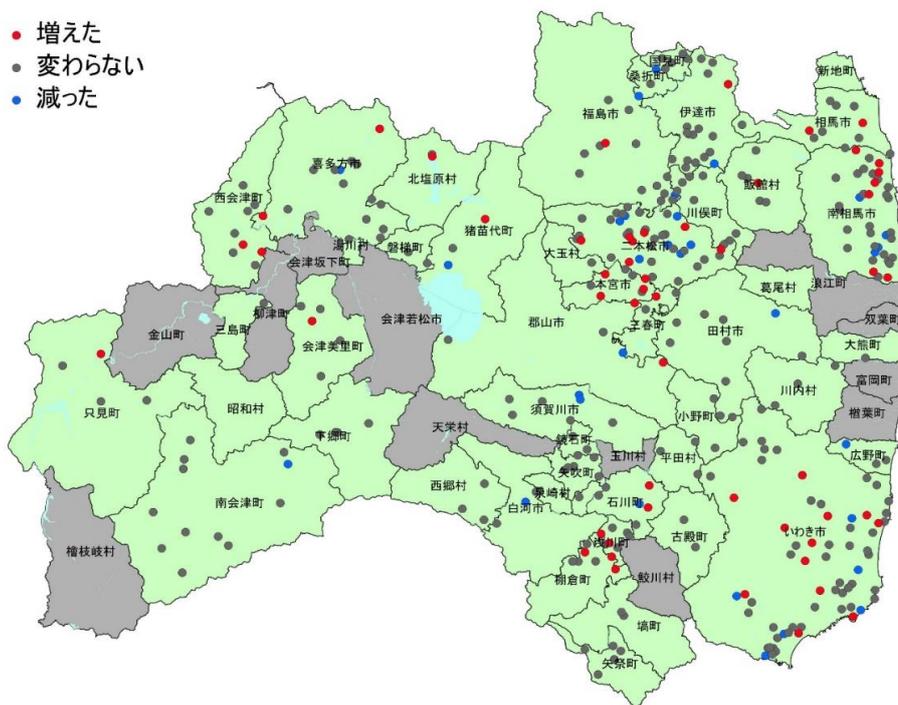


アライグマの農林業被害は、中通りおよび浜通りにかけて「増えた」との回答が多くみられるほか、全域で「変わらない」との回答となった。

アライグマの生活被害の増減

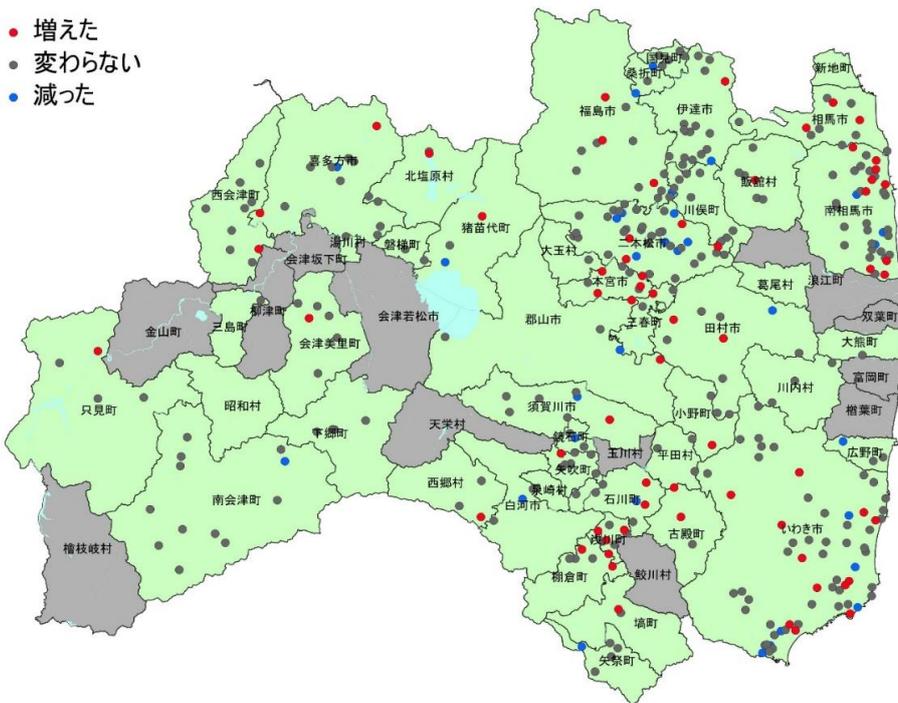
昨年度比

- 増えた
- 変わらない
- 減った



5年前比

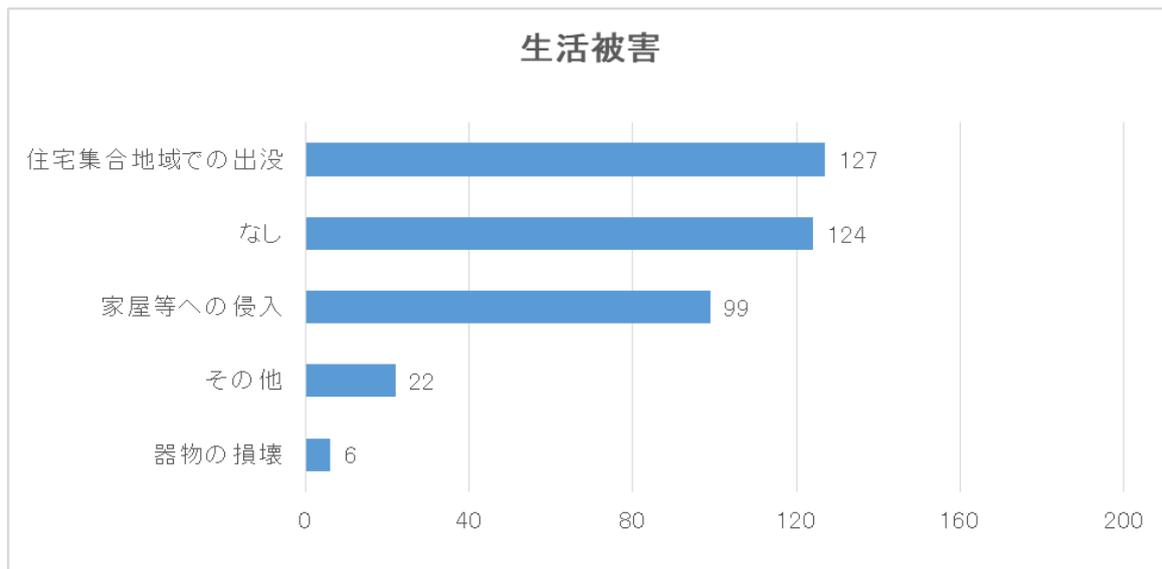
- 増えた
- 変わらない
- 減った



アライグマの生活被害は、中通りおよび浜通りにかけて「増えた」との回答が多くみられるほか、全域で「変わらない」との回答となった。

昨年度と5年前を比べると、二本松市で「増えた」との回答が多くみられるほか、中通りでは「変わらない」との回答が増加している。

アライグマの生活被害の内容

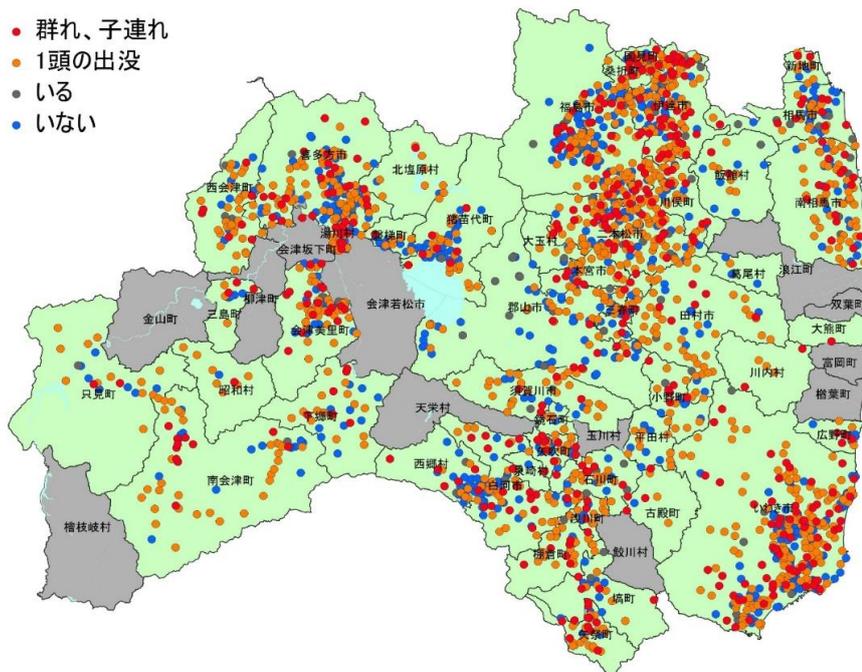


アライグマによる主な被害は、被害があると回答した254件のうち、「住宅集合地域での出没」が127件と最も多く、次いで「家屋等への侵入」が99件であった。

ハクビシンの被害状況

ハクビシンの生息状況

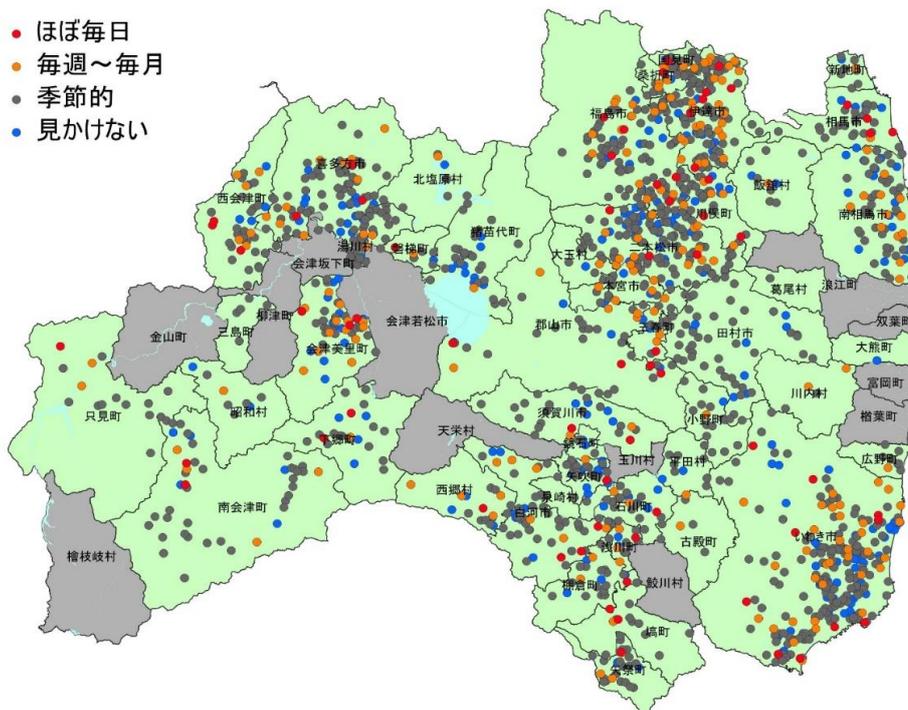
- 群れ、子連れ
- 1頭の出没
- いる
- いない



ハクビシンは、県内のほぼ全域に分布している。
南会津地域は「1頭の出没」との回答が比較的多いが、その他の地域は「1頭の出没」、「群れ、子連れ」との回答が多くみられる。

ハクビシンの目撃頻度

- ほぼ毎日
- 毎週～毎月
- 季節的
- 見かけない

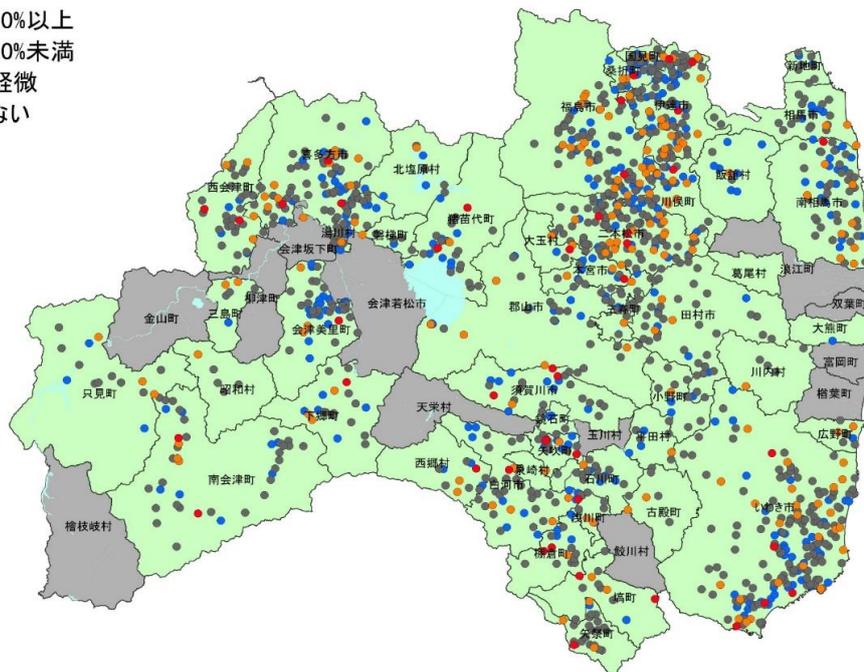


ハクビシンの目撃頻度は、県内全域で季節的な出没が多く見られる。

ハクビシンの被害・対策状況

ハクビシンの被害の程度

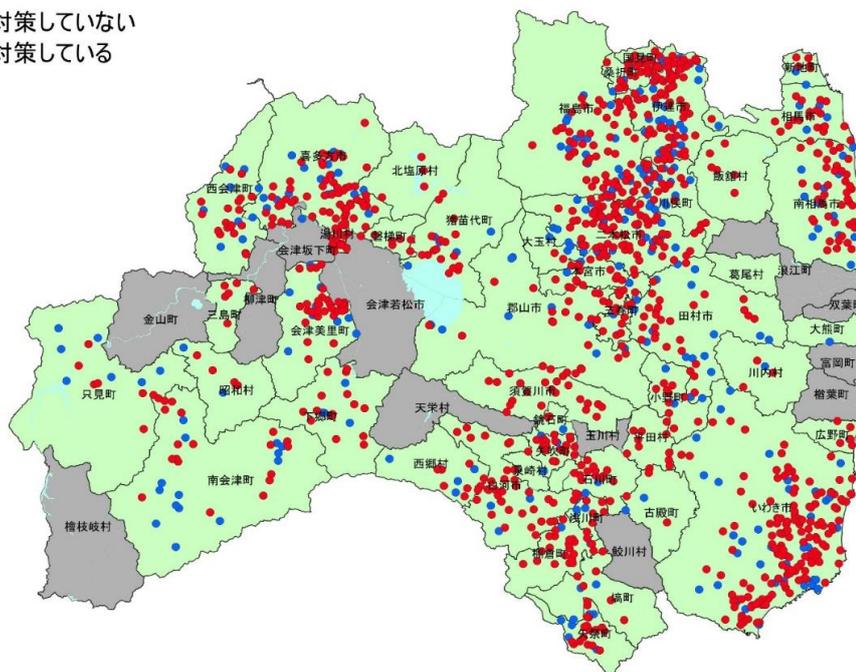
- 30%以上
- 30%未満
- 軽微
- ない



農林業被害のある1,041件のうち、「軽微」が820件（79%）を占める。「30%以上」との回答があった集落は46件（4%）であった。

ハクビシンの被害対策の実施

- 対策していない
- 対策している

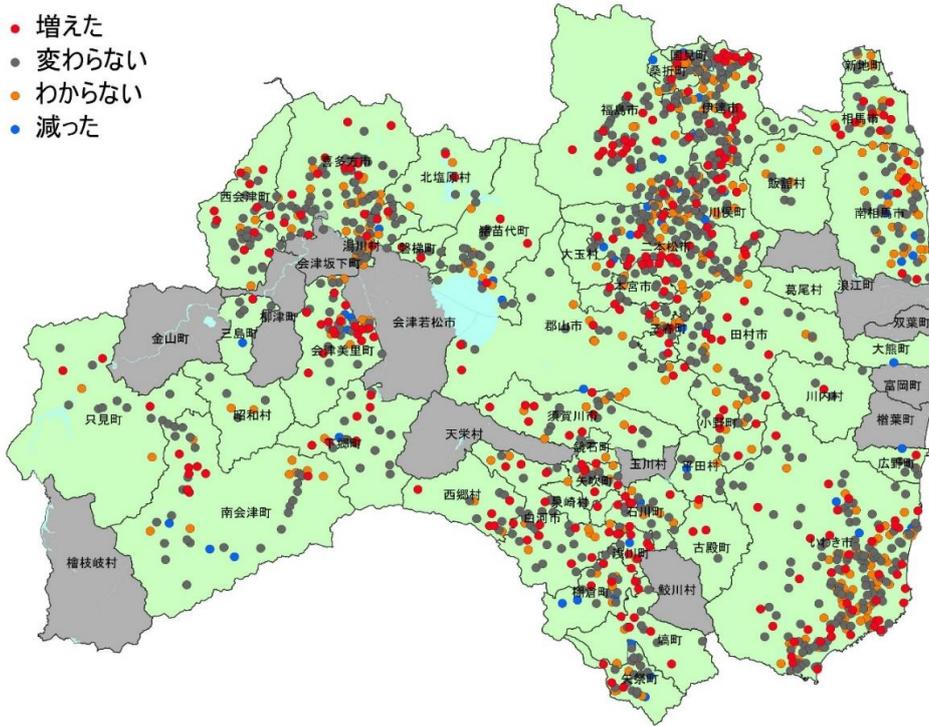


ハクビシンが定着している集落で、被害対策について回答のあった1,136件のうち、対策を行っていない集落は985件（87%）あった。

ハクビシンの生息状況の増減

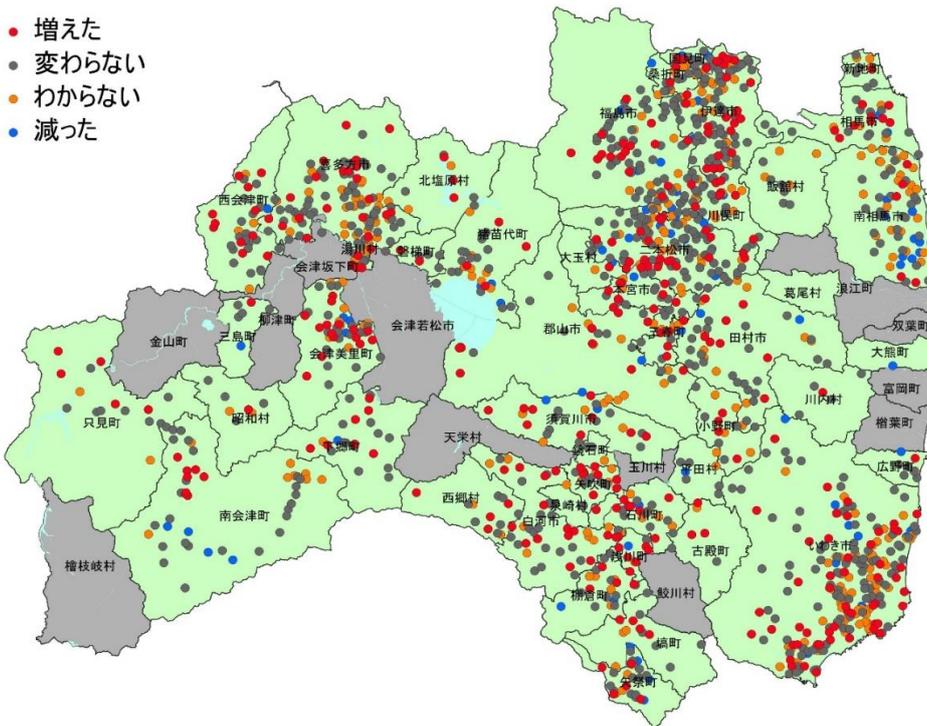
昨年度比

- 増えた
- 変わらない
- わからない
- 減った



5年前比

- 増えた
- 変わらない
- わからない
- 減った

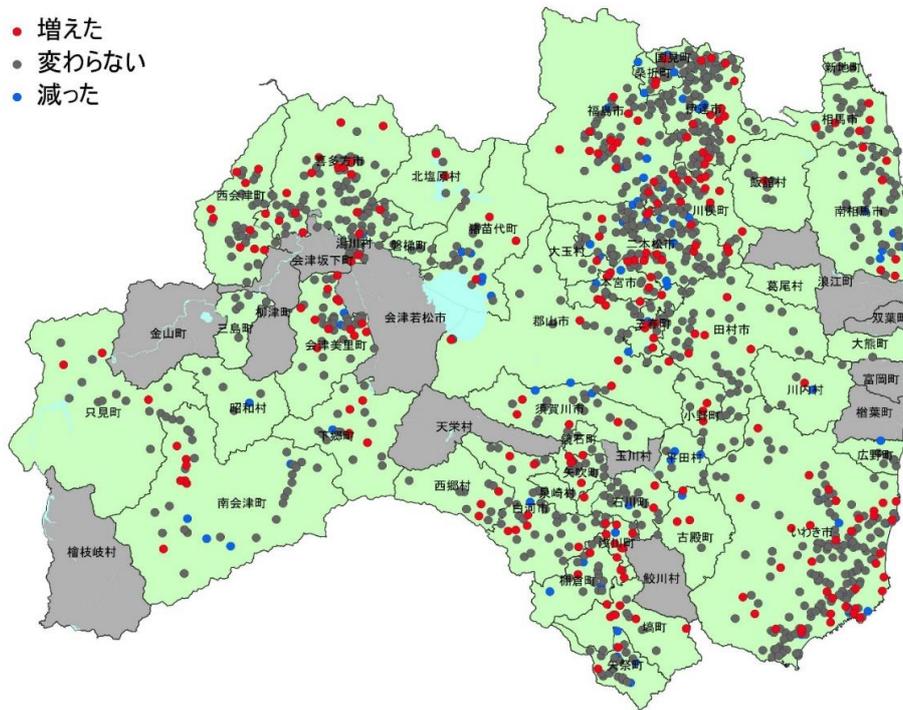


ハクビシンの生息状況は、ハクビシンが分布している地域のほとんどで、増加もしくは変わらない傾向にある。特に県北地域と県南地域、浜通りに「増えた」との回答が多い。

ハクビシンの農林業被害の増減

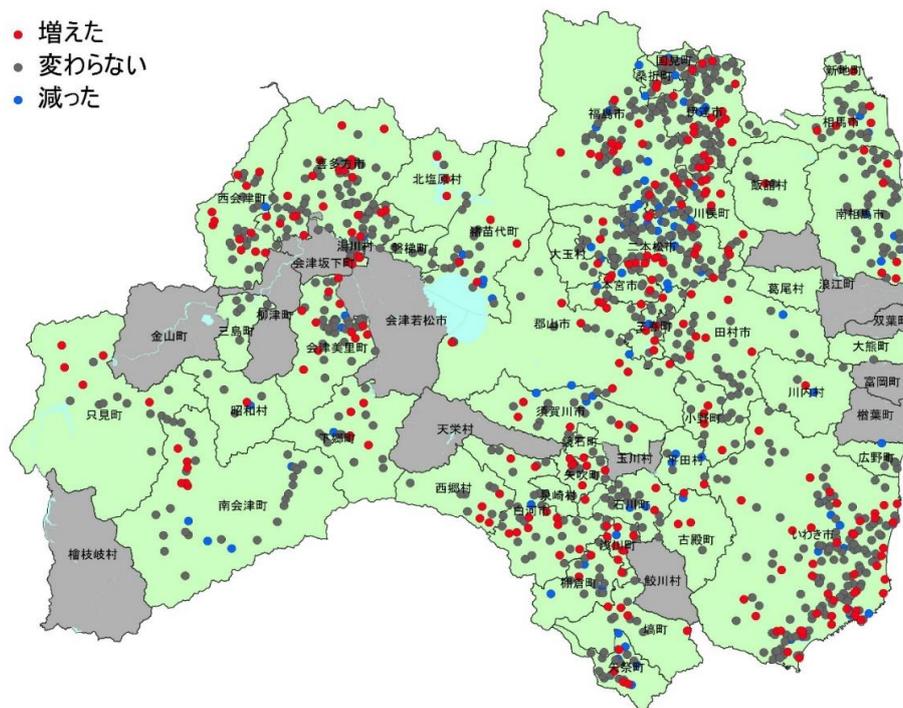
昨年度比

- 増えた
- 変わらない
- 減った



5年前比

- 増えた
- 変わらない
- 減った

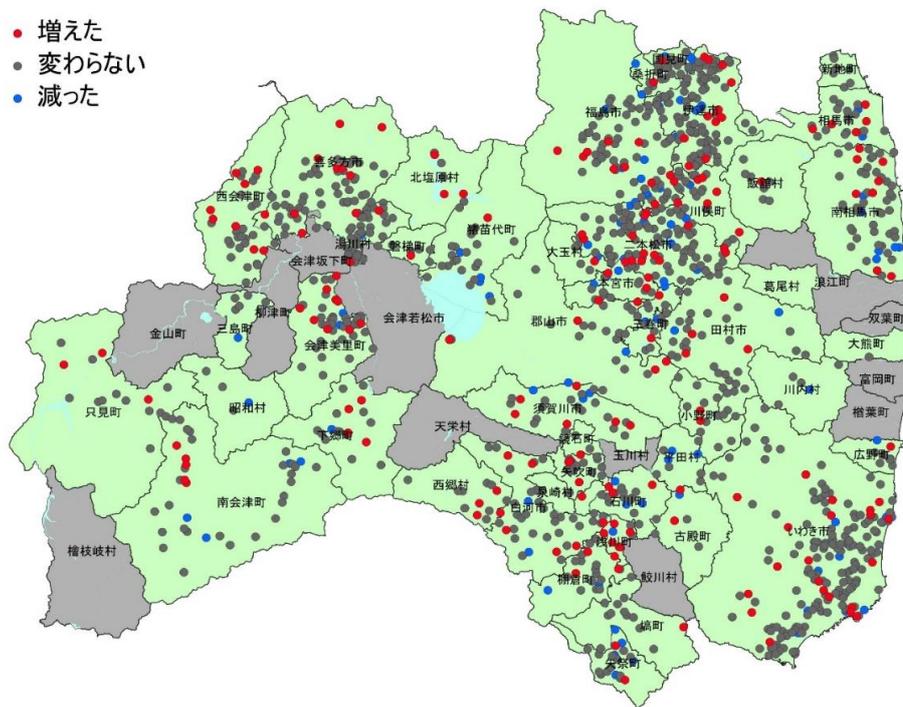


ハクビシンの農林業被害は、全域で「増えた」および「変わらない」との回答が見られる。また、中通りでは他の地域よりも「減った」との回答が多く見られた。

ハクビシンの生活被害の増減

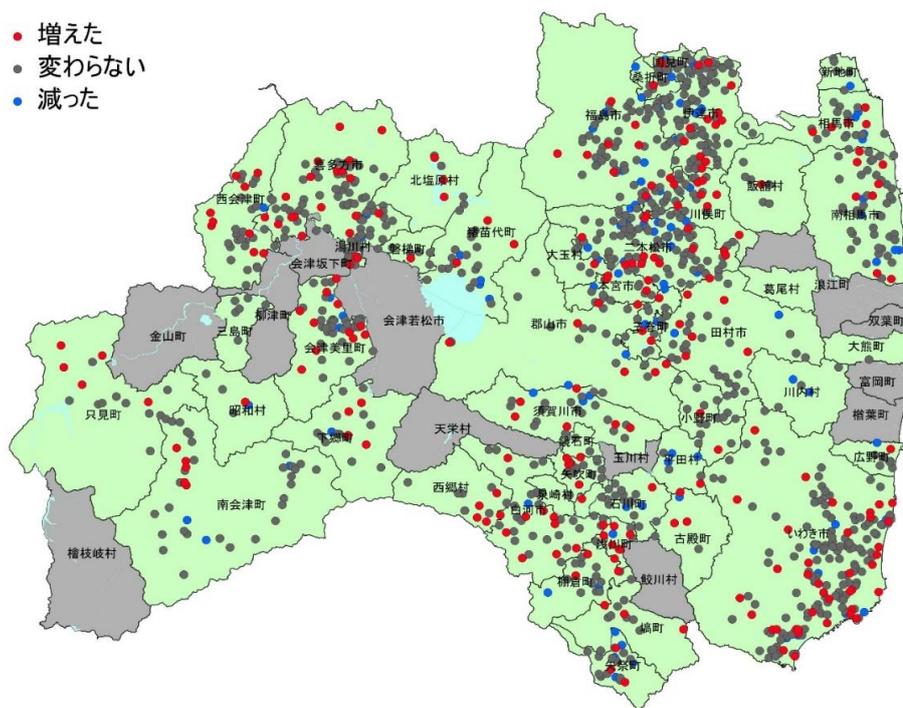
昨年度比

- 増えた
- 変わらない
- 減った



5年前比

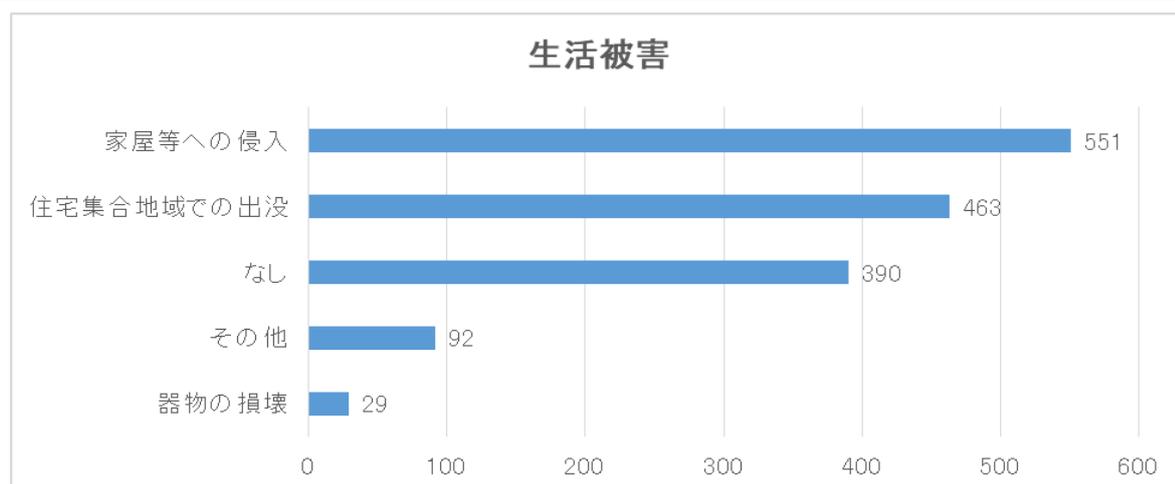
- 増えた
- 変わらない
- 減った



ハクビシンの生活被害は、全域で「増えた」および「変わらない」との回答が見られる。また、中通りおよびいわき市では他の地域よりも「減った」との回答が多く見られた。

昨年度と5年前を比べると、全域で「変わらない」との回答が増加している。

ハクビシンの生活被害の内容



ハクビシンによる主な被害は、被害があると回答した1,135件のうち、「家屋等への侵入」が551件と最も多く、次いで「住宅集合地域での出没」が463件であった。